

伊 勢 市

障がい者計画等策定のための市民アンケート調査

【結果報告書】

令和2年8月

伊 勢 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1. あなた自身のことについて	2
2. 生活や就労、日中の居場所について	6
3. サービスの利用について	20
4. 医療について	23
5. 相談・情報について	26
6. 余暇活動について	33
7. 一人ひとりの権利を守る取り組みについて	35
8. 災害などが起こったときについて	41
9. 障がい児・者福祉について	46
10. 介助者について	48

Ⅰ 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「伊勢市第2期障がい者計画及び第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画」を策定するにあたり、障がいのある人の生活状況や将来のこと、福祉サービスの利用状況・利用意向などを把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域：伊勢市全域
- 調査対象者：身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者
自立支援受給者証所持者、福祉サービス等利用児童
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査期間：令和2年5月18日～6月1日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収

調査対象者数（配布数）	有効回答数	有効回答率
3,000人	1,420人	47.3%

3. 報告書の見方

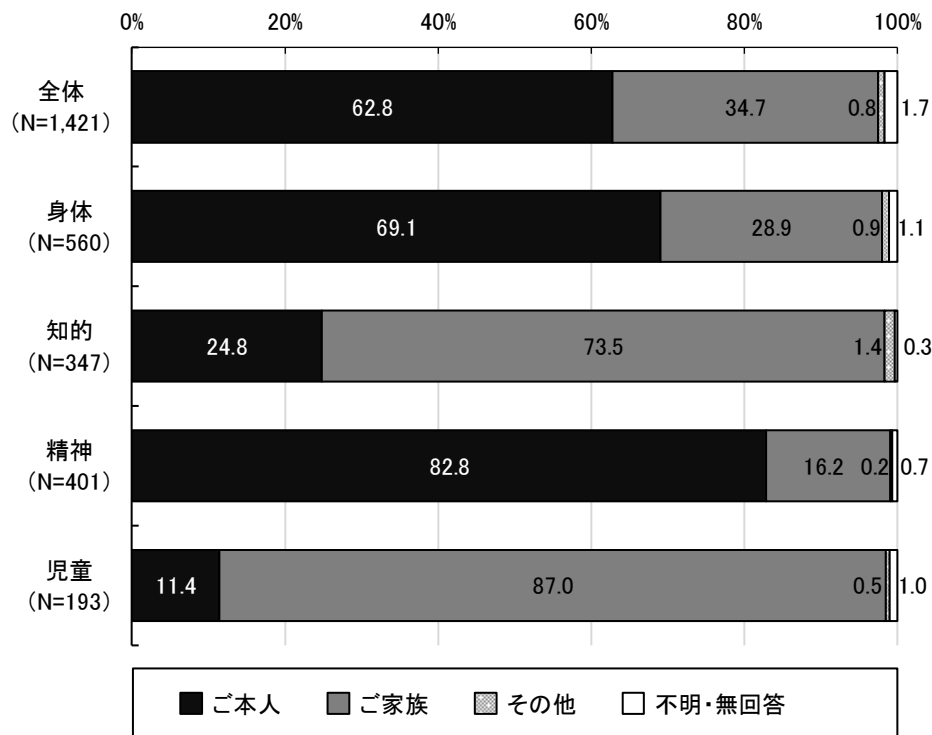
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 本報告書は、それぞれの手帳所持者別にクロス集計をかけることで身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者を別々に集計しています。よって、重複手帳所持者がそれぞれに数えられ、集計されています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- グラフ中の「身体」は身体障害者手帳所持者、「知的」は療育手帳所持者、「精神」は精神障害者保健福祉手帳所持者、「児童」は障がいのある児童のことを示しています。

II 調査結果

1. あなた自身のことについて

問1 回答者

回答者についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「ご本人」がそれぞれ69.1%、82.8%、知的障がいのある人・障がいのある児童では「ご家族」がそれぞれ73.5%、87.0%で最も高くなっています。



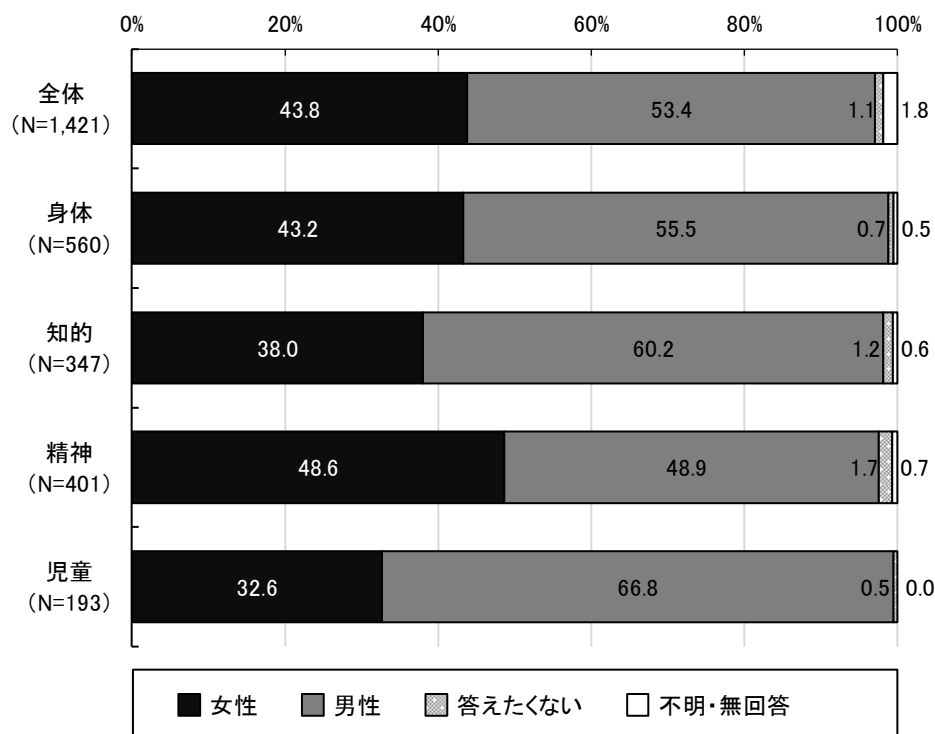
問2 年齢

年齢についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「50歳代」がそれぞれ30.0%、32.4%、知的障がいのある人では「19歳以下」が28.2%で最も高くなっています。

	全体 (N=1,421)	身体 (N=560)	知的 (N=347)	精神 (N=401)
19歳以下	15.8	9.8	28.2	4.5
20歳代	10.1	6.3	21.9	9.5
30歳代	13.9	8.8	21.0	16.0
40歳代	17.1	13.4	13.5	26.9
50歳代	24.7	30.0	9.8	32.4
60歳代	14.6	28.6	2.6	8.0
70歳以上	1.4	1.3	2.0	1.5
不明・無回答	2.4	2.0	0.9	1.2

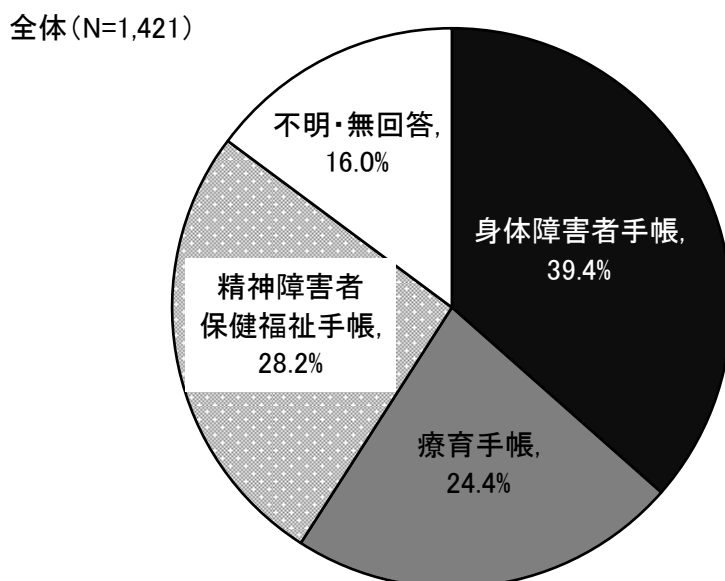
問3 性別

性別についてみると、いずれの障がいにおいても「男性」が高くなっており、身体障がいのある人では55.5%、知的障がいのある人では60.2%、精神障がいのある人では48.9%、障がいのある児童では66.8%となっています。



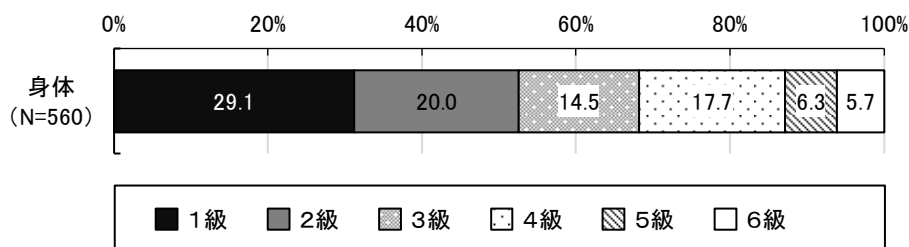
問4 所持している手帳の種類

所持している手帳の種類についてみると、「身体障害者手帳」が39.4%、「療育手帳」が24.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が28.2%となっています。



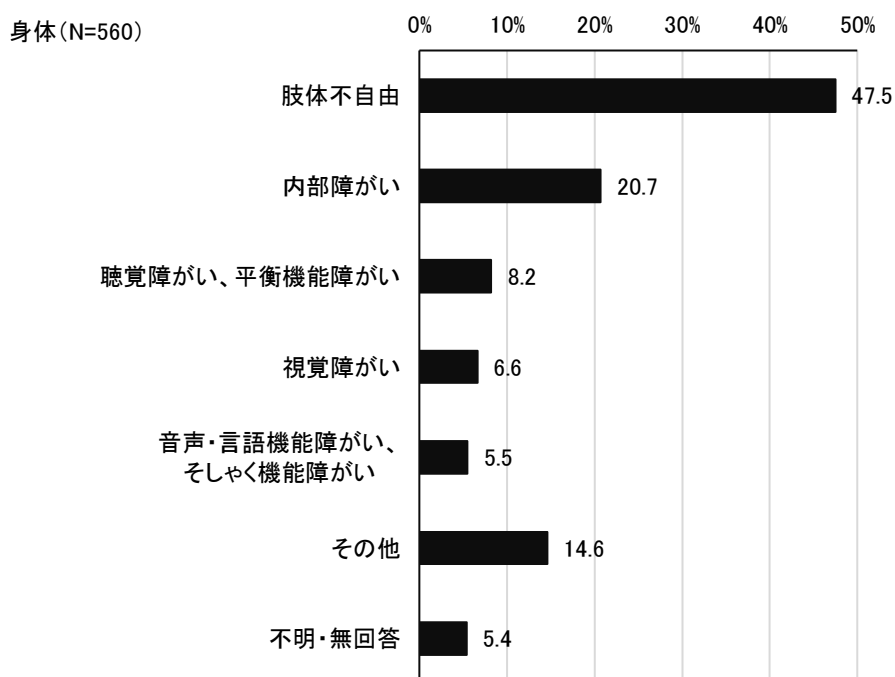
問 4 (1) - 1 身体障害者手帳／障がい等級

身体障害者手帳の障がい等級についてみると、「1級」が29.1%で最も高く、次いで「2級」が20.0%となっています。



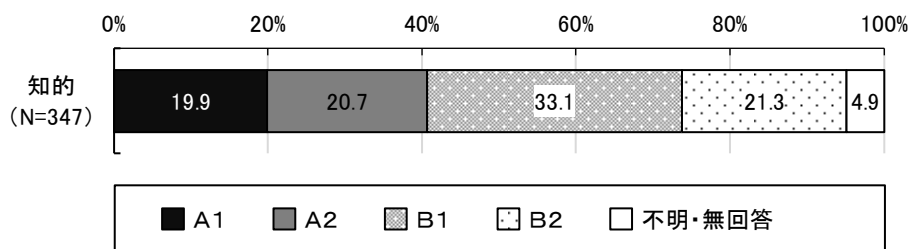
問 4 (1) - 2 身体障がいのある人の障がい種別

身体障害者手帳の障がい種別についてみると、「肢体不自由」が47.5%で最も高く、次いで「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器など）」が20.7%となっています。



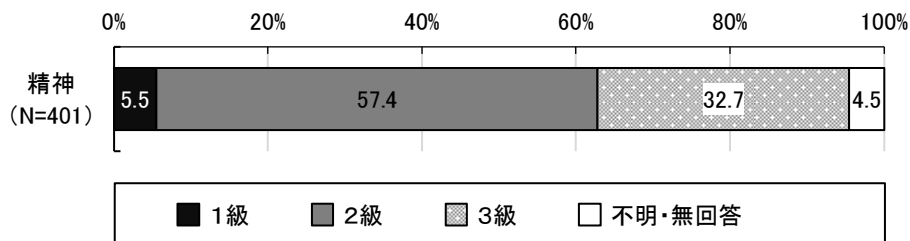
問 4 (2) 療育手帳／障がい程度

療育手帳の障がい程度についてみると、「B 1」が33.1%で最も高く、次いで「B 2」が21.3%となっています。



問 4 (3) 精神障害者保健福祉手帳／障がい等級

精神障害者保健福祉手帳の障がい等級についてみると、「2級」が57.4%で最も高く、次いで「3級」が32.7%となっています。



2. 生活や就労、日中の居場所について

問5 現在、生活をしていく上で困っていることは何ですか

現在、生活をしていく上で困っていることについてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「急に体調が悪くなったときの対応」が最も高く、それぞれ25.7%、40.1%となっています。

また、知的障がいのある人では「緊急時の対応」が30.0%で最も高くなっています。障がいのある児童では「特にない」が28.0%と最も高く、次いで「排せつ」が16.1%となっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
急に体調が悪くなったときの対応	28.8	25.7	26.2	40.1	11.4
緊急時の対応	25.0	25.4	30.0	30.7	15.5
部屋の掃除・整理整頓	22.7	19.1	18.4	33.2	14.0
近所の人との会話やつきあい	18.1	10.4	20.7	30.7	15.5
病気や障がいへの理解がない	18.0	13.4	14.7	31.7	10.9
日常の健康管理	17.6	14.8	17.6	26.7	8.3
食事の準備や調理	17.0	17.3	17.0	21.9	6.2
規則正しい生活	16.9	9.6	14.4	30.9	13.0
電車・バスなど交通機関の利用	16.2	14.8	19.0	20.2	13.5
現金や預金通帳などの管理	15.3	8.8	27.1	19.0	10.4
気楽に行けるところがない	14.9	13.6	15.9	20.9	8.8
家族との会話やつきあい	13.6	7.3	14.4	23.2	11.4
気楽に話を聴いてくれるところがない	13.4	8.9	11.5	23.9	4.7
スマートフォン等を用いたWebコンテンツの利用	13.2	11.1	18.2	15.5	8.3
働きたいが仕事がない	13.0	13.0	8.4	21.4	3.6
銀行や郵便局・役所の利用	13.0	10.5	22.5	13.2	6.7
日用品などの買い物	12.3	12.5	14.7	14.5	6.7
入浴	11.0	18.0	13.8	8.0	8.3
電話、メール、FAXなどの通信機器の利用	10.0	7.3	17.3	11.5	6.2
排せつ	9.9	14.8	16.4	5.5	16.1
服薬の管理	9.9	7.9	13.0	14.5	7.3
衣類の洗濯	9.8	9.8	12.1	11.0	5.7
食事	9.7	13.2	13.0	9.7	9.3
戸締りや火の始末	7.5	6.8	10.1	9.0	7.3
その他	7.2	5.7	8.9	6.7	9.8
特にない	19.8	23.2	17.6	10.0	28.0
不明・無回答	6.6	4.8	8.9	3.0	8.3

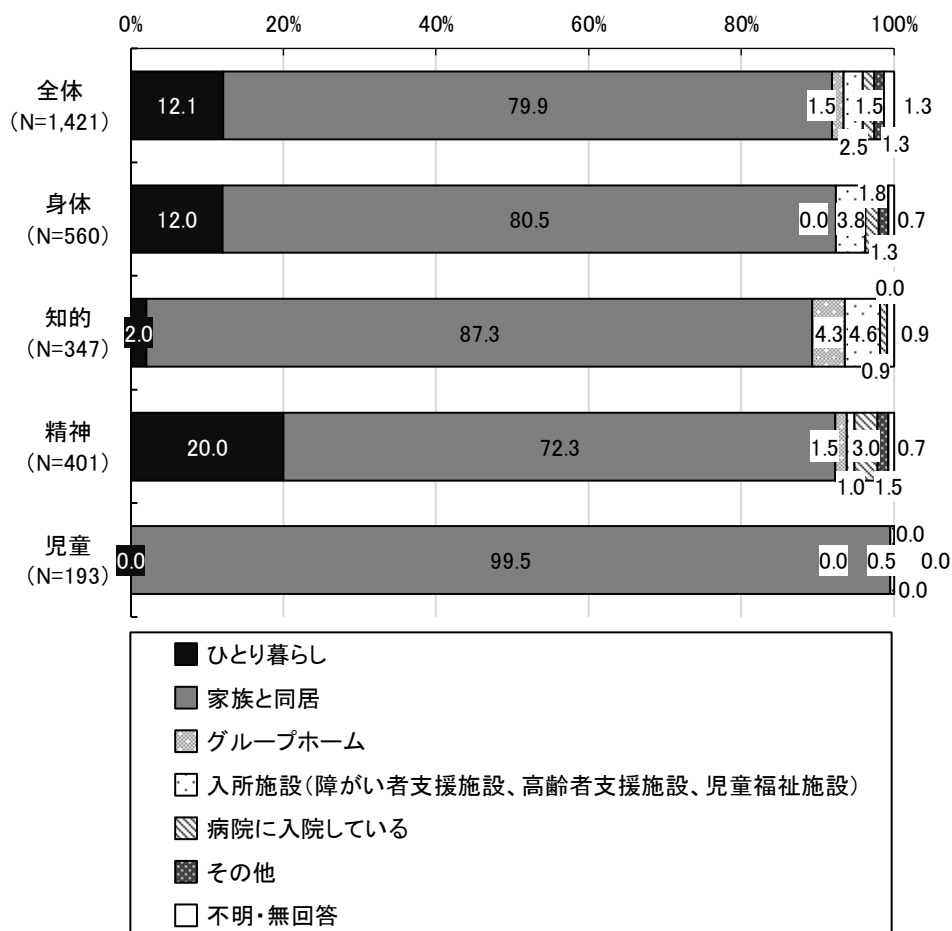
●生活をしていく上で困っていること【経年比較】

生活をしていく上で困っていることについて、平成26年度に実施した「福祉に関するアンケート調査」（以降、「前回調査」という。表では【前回】と表記）と比較すると、身体障がいのある人では「特にない」が15.7ポイント減少し、「排せつ」が8.3ポイント増加しています。知的障がいのある人では特に減少した項目が多くなっており、その中でも「食事の準備や調理」、「働きたいが仕事がない」、「衣類の洗濯」でそれぞれが12.1ポイント、10.7ポイント、10.5ポイント減少しています。精神障がいのある人でも減少した項目が多く、「働きたいが仕事がない」で9.5ポイント、「入浴」で8.8ポイント減少しています。

	身体(N=560)		知的(N=347)		精神(N=401)	
	身体【前回】(N=525)		知的【前回】(N=199)		精神【前回】(N=191)	
急に体調が悪くなったときの対応	25.7		26.2		40.1	
	20.4		28.1		40.8	
緊急時の対応(※新規項目)	25.4		30.0		30.7	
	-		-		-	
部屋の掃除・整理整頓	19.1		18.4		33.2	
	17.5		23.6		36.1	
近所の人との会話やつきあい	10.4		20.7		30.7	
	6.1		21.6		36.6	
病気や障がいへの理解がない	13.4		14.7		31.7	
	9.3		22.6		33.5	
日常の健康管理	14.8		17.6		26.7	
	8.0		22.6		23.6	
食事の準備や調理	17.3		17.0		21.9	
	12.4		29.1		26.2	
規則正しい生活	9.6		14.4		30.9	
	5.3		12.6		29.3	
電車・バスなど交通機関の利用	14.8		19.0		20.2	
	12.8		25.6		22.0	
現金や預金通帳などの管理	8.8		27.1		19.0	
	5.7		32.7		16.8	
気楽に行ける場所がない	13.6		15.9		20.9	
	9.5		23.1		25.7	
家族との会話やつきあい	7.3		14.4		23.2	
	3.8		12.6		18.3	
気楽に話を聞いてくれる場所がない	8.9		11.5		23.9	
	4.0		12.6		19.9	
スマートフォン等を用いたWebコンテンツの利用(※新規項目)	11.1		18.2		15.5	
	-		-		-	
働きたいが仕事がない	13.0		8.4		21.4	
	11.8		19.1		30.9	
銀行や郵便局・役所の利用	10.5		22.5		13.2	
	8.0		32.2		19.4	
日用品などの買い物	12.5		14.7		14.5	
	13.3		23.6		22.5	
入浴	18.0		13.8		8.0	
	12.4		17.6		16.8	
電話、メール、FAXなどの通信機器の利用	7.3		17.3		11.5	
	6.5		20.6		15.7	
排せつ	14.8		16.4		5.5	
	6.5		12.1		7.9	
服薬の管理	7.9		13.0		14.5	
	5.3		20.1		14.7	
衣類の洗濯	9.8		12.1		11.0	
	9.0		22.6		12.0	
食事	13.2		13.0		9.7	
	9.5		16.1		14.1	
戸締りや火の始末	6.8		10.1		9.0	
	4.2		17.6		12.6	
その他	5.7		8.9		6.7	
	5.1		5.5		8.9	
特にない	23.2		17.6		10.0	
	38.9		22.6		13.6	
不明・無回答	4.8		8.9		3.0	
	6.9		10.1		1.0	

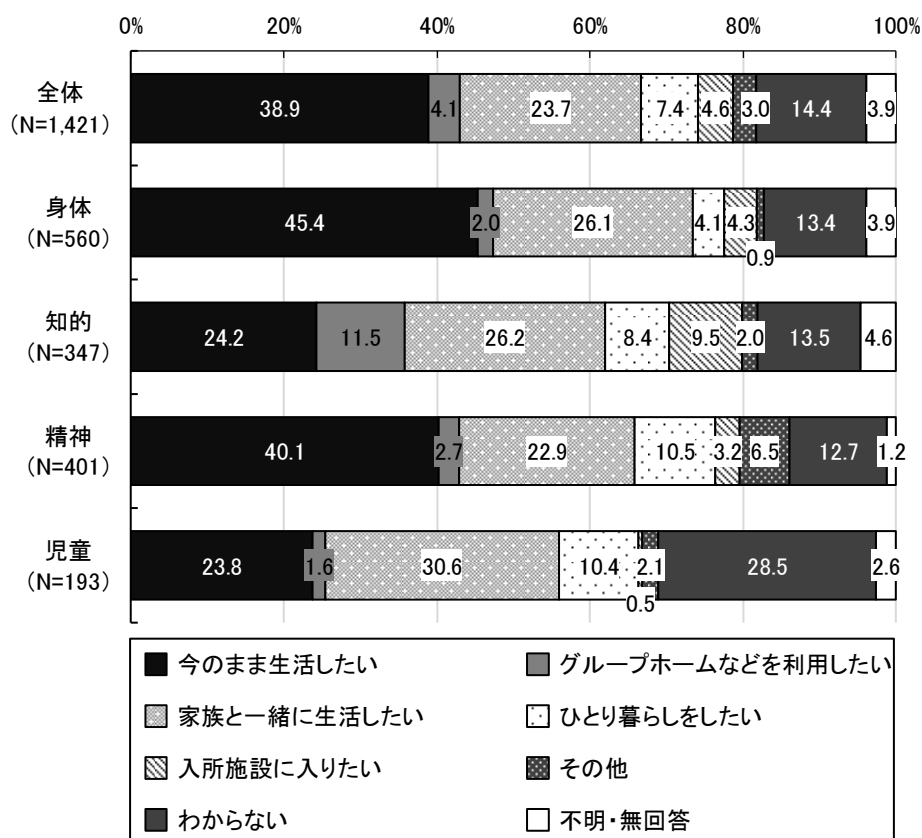
問6 あなたは現在、どのように生活していますか

現在の生活状況についてみると、いずれの障がいにおいても「家族と同居」が最も高くなっており、7割以上を占めています。また、「ひとり暮らし」については、精神障がいのある人で20.0%となっています。



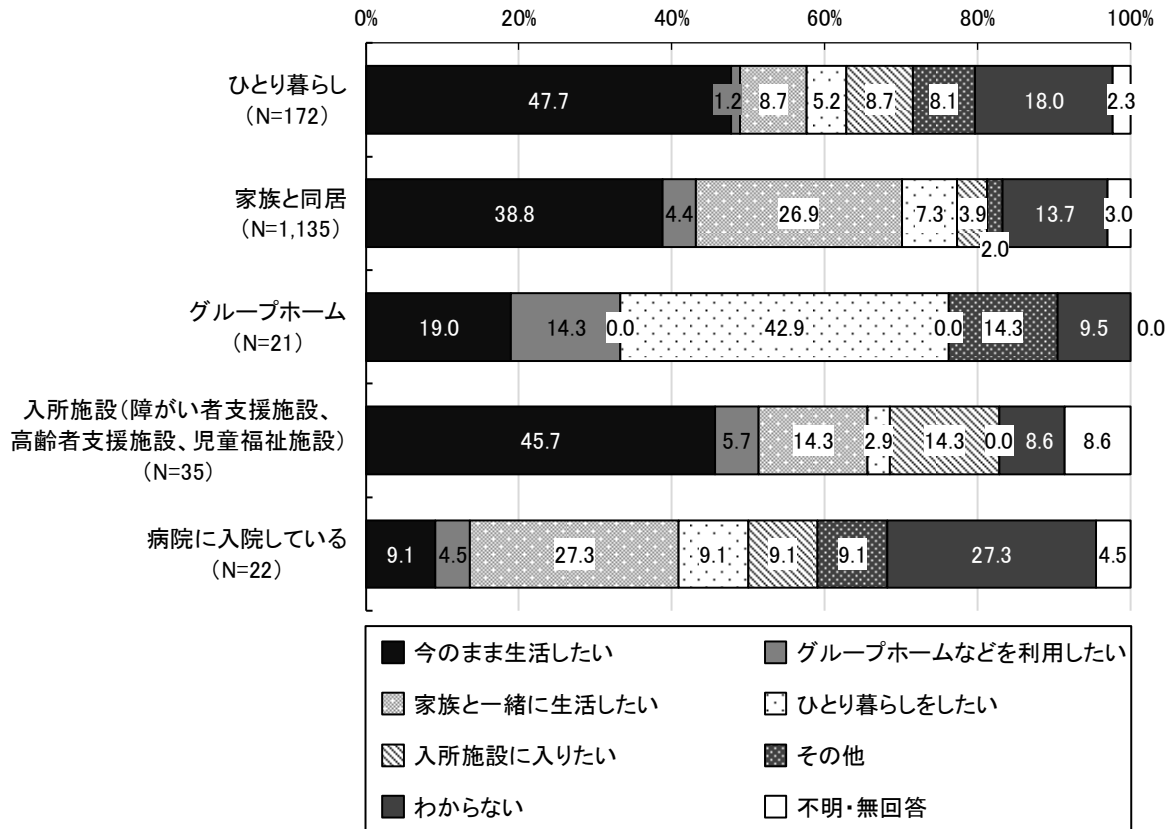
問7 あなたは将来、どのように生活したいと思いますか

将来、どのように生活したいかについてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では、「今のまま生活したい」が最も高く、それぞれ 45.4%、40.1%となっています。知的障がいのある人・障がいのある児童では、「家族と一緒に生活したい」が最も高く、それぞれ 26.2%、30.6%となっています。



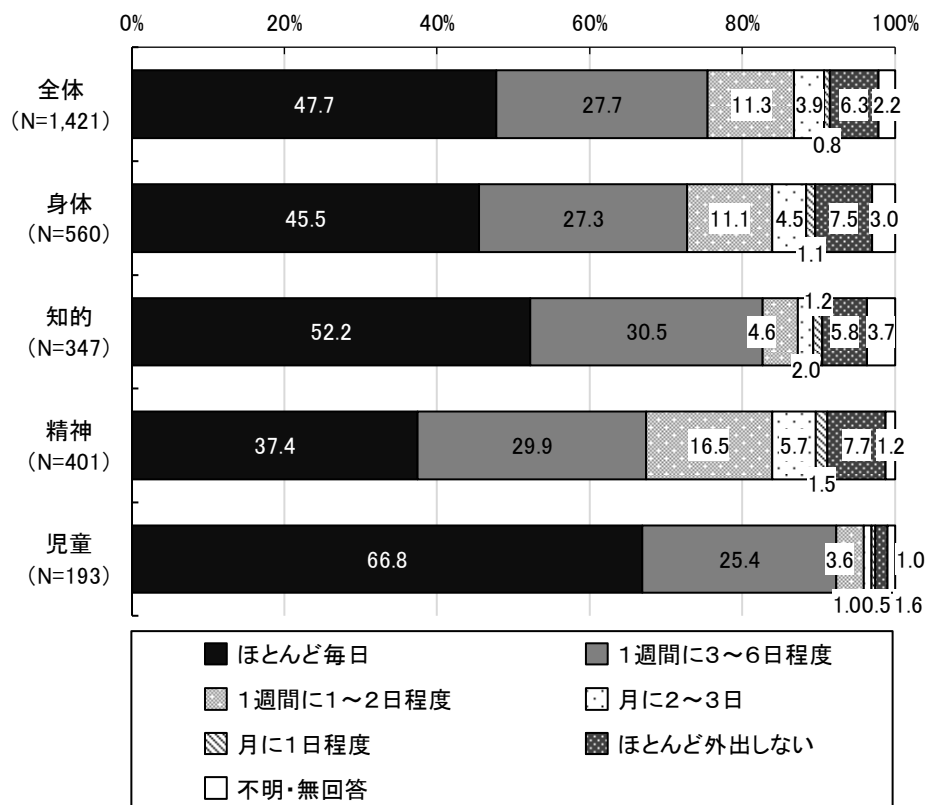
●将来希望する生活の場×現在の生活の場

将来希望する生活の場を現在の生活の場別にみると、【ひとり暮らし】・【家族と同居】・【入所施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設、児童福祉施設）】で生活している人は、「今のまま生活したい」が最も高く、それぞれ47.7%、38.8%、45.7%となっています。【グループホーム】で生活している人は「ひとり暮らしをしたい」が42.9%で最も高く、【病院に入院している】人は、「家族と一緒に生活したい」と「わからない」が27.3%で並んでいます。



問8 どの程度外出（通勤・通学を含む）しますか

外出の頻度についてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人・精神障がいのある人のいずれにおいても「ほとんど毎日外出する」が最も高く3割半ば～6割半ばとなっており、次いで「1週間に3～6日程度」が2割半ば～3割で高くなっています。



問9 外出をするときに支援は必要ですか

外出時における支援の必要性についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「必要ない」が最も高く、それぞれ44.8%、46.6%となっています。次いで、身体障がいのある人では「外出先までの移動に支援が必要」が28.7%、精神障がいのある人では「普段は一人で行けるが、調子が悪いときは支援が必要」が23.9%と高くなっています。

また、知的障がいのある人・障がいのある児童では「外出先までの移動に支援が必要」が最も高く、それぞれ42.9%、39.4%となっています。

	全体 (N=1,421)	身体 (N=560)	知的 (N=347)	精神 (N=401)	児童 (N=193)
外出先までの移動に支援が必要	23.4	28.7	42.9	14.5	39.4
慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要	17.0	10.4	23.6	21.4	19.2
普段は一人で行けるが、調子が悪いときは支援が必要	13.5	11.3	5.8	23.9	2.6
外出先(お店の中など)では支援が必要	9.5	9.5	19.0	5.7	15.5
その他	5.1	4.5	4.3	5.7	7.8
必要ない	46.3	44.8	28.8	46.6	35.2
不明・無回答	2.6	3.2	3.7	2.5	1.6

問 10 ☆問 9 で「外出先までの移動に支援が必要」、「慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要」、「普段は一人で行けるが、調子が悪いときは支援が必要」、「その他」に○をされた方

一人で外出できない場合、どのように外出していますか

一人で外出できない場合、どのように外出しているかについてみると、いずれの障がいにおいても「家族に付き添ってもらっている」が最も高く、7割以上を占めています。

	全体 (N=701)	身体 (N=276)	知的 (N=228)	精神 (N=198)	児童 (N=118)
家族に付き添ってもらっている	77.7	74.6	82.5	75.3	97.5
事業所などの送迎を利用している	21.7	22.8	42.1	10.6	22.9
福祉サービス(移動支援、行動援護、重度訪問介護など)を利用している	9.1	10.5	16.2	5.6	5.1
有料サービス(福祉タクシー、介護タクシーなど)を利用している	7.8	12.0	4.8	9.1	3.4
友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている	7.7	8.7	4.4	8.1	8.5
その他	8.6	8.0	3.1	12.6	3.4
不明・無回答	3.0	4.0	0.9	3.0	-

問 11 ☆問 9 で「外出先までの移動に支援が必要」、「慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要」、「普段は一人で行けるが、調子が悪いときは支援が必要」、「その他」に○をされた方

通勤・通学以外で外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか

通勤・通学以外での外出支援として、福祉サービスをどの程度利用したいかについてみると、いずれの障がいにおいても「わからない」が最も高く、約3～4割となっています。次いで、身体障がいのある人・知的障がいのある人では「1週間に1～2日程度」、精神障がいのある人・障がいのある児童では「利用したくない」が高く、1割から1割半ばとなっています。

	全体 (N=701)	身体 (N=276)	知的 (N=228)	精神 (N=198)	児童 (N=118)
毎日	5.7	5.8	7.5	6.1	3.4
1週間に3～6日程度	9.3	8.3	14.5	5.1	11.9
1週間に1～2日程度	11.1	11.2	14.9	7.6	12.7
月に2～3日程度	9.6	9.1	12.3	11.6	8.5
月に1日程度	6.4	6.9	7.9	5.1	2.5
その他	7.6	10.1	5.7	5.1	5.9
利用したくない	10.1	8.0	3.5	15.2	13.6
わからない	34.1	34.1	29.8	38.9	38.1
不明・無回答	6.1	6.5	3.9	5.6	3.4

●問 12～問 17 は、18 歳以上の方のみが回答

問 12 現在、就労していますか

現在の就労状況についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「働いていない」が約3割半ば～4割、知的障がいのある人では「就労継続支援A・Bを利用している」が2割半ばで最も高くなっています。次いで、身体障がいのある人では「一般企業などに正規雇用で勤めている」が約2割、知的障がいのある人では「働いていない」が2割半ば、精神障がいのある人では「就労継続支援A・Bを利用している」が約2割と高くなっています。

	全体(N=1,194)	身体(N=501)	知的(N=268)	精神(N=383)
一般企業などに正規雇用で勤めている	17.1	22.2	6.7	10.4
就労継続支援A・Bを利用している	14.8	8.2	26.9	18.8
パート・アルバイトで短時間の仕事をしている	12.4	12.2	8.6	12.8
自宅の家事をしている	6.5	6.4	3.0	9.1
生活介護を利用している	4.2	3.6	14.9	1.3
自営業で働いている、家の仕事を手伝っている	4.0	6.6	0.4	3.1
就労移行支援を利用している	1.6	0.6	4.9	0.8
職業の訓練施設に通っている	0.1	-	0.4	-
その他	4.0	3.8	3.7	4.2
働いていない	32.4	34.5	24.3	38.4
不明・無回答	2.8	2.0	6.3	1.0

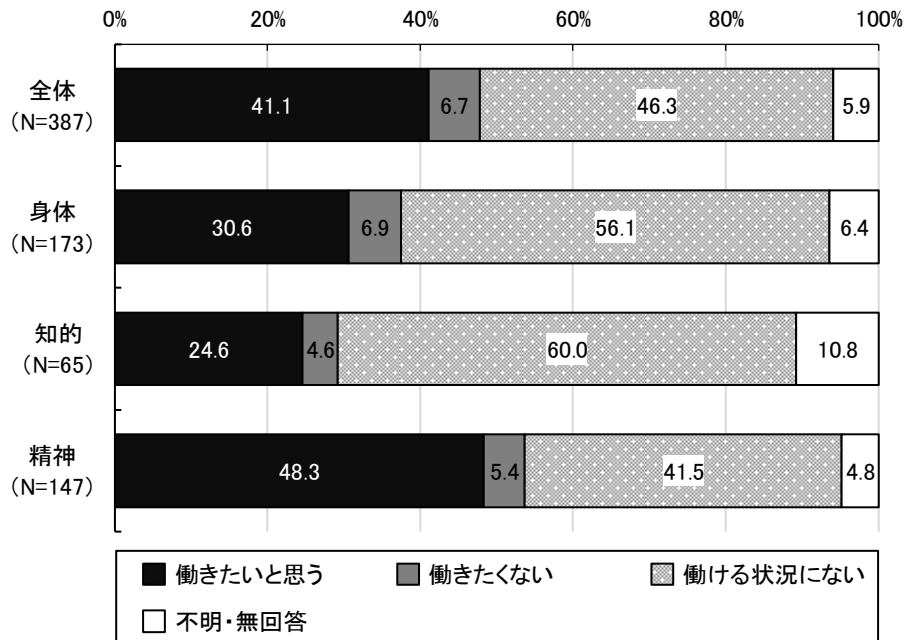
問 13 ☆問 12 で「働いていない」に○をされた方
働いていない理由を教えてください

働いていない理由についてみると、いずれの障がいにおいても「働ける状況にない」が最も高く、約3割～3割半ばとなっています。次いで、身体障がいのある人では「その他」が12.7%、知的障がいのある人では「入院・入所している」が16.9%、精神障がいのある人では「働く自信がない」が19.7%となっています。

	全体(N=387)	身体(N=173)	知的(N=65)	精神(N=147)
働ける状況にない	32.6	35.3	27.7	36.1
働く自信がない	18.1	12.1	13.8	19.7
仕事が見つからない	9.0	7.5	4.6	10.9
入院・入所している	8.5	11.0	16.9	6.1
学生	4.4	2.3	7.7	2.7
定年退職した	4.4	8.7	1.5	0.7
働く必要がない	2.8	2.3	-	4.1
病院のデイケアに通っている	1.6	1.7	1.5	1.4
その他	10.6	12.7	13.8	9.5
不明・無回答	8.0	6.4	12.3	8.8

問 14 ☆問 12 で「働いていない」に○をされた方
 今後、働きたいと思いますか

今後の就労意向についてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人では、「働ける状況にない」が5割半ば～6割で最も高くなっています。精神障がいのある人では、「働きたいと思う」が約半数で、最も高くなっています。



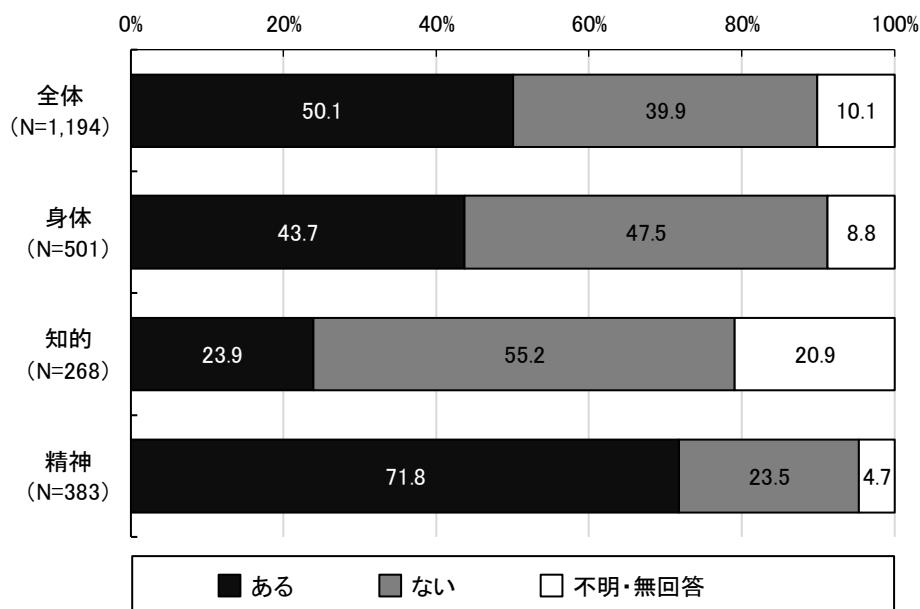
問 15 ☆問 12 で「働いていない」に○をされた方
 どのような支援や配慮があれば働けるとおもいますか

どのような支援や配慮があれば働けるかについてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人では「その他」がともに 27.7%、精神障がいのある人では「職場の人たちの障がいについての理解」が46.3%で最も高くなっています。

	全体 (N=387)	身体 (N=173)	知的 (N=65)	精神 (N=147)
職場の人たちの障がいについての理解	32.8	22.0	18.5	46.3
障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し	30.0	23.1	23.1	36.7
職場内に相談にのってくれる人がいる	24.0	17.9	16.9	30.6
通勤する方法や通勤の手助け(介助等)がある	16.5	17.9	16.9	13.6
生活のリズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導	14.7	9.8	15.4	20.4
いろいろな仕事を体験できる実習や職場体験	12.1	7.5	7.7	12.9
仕事や職場に慣れるまで、付き添って助けをする人がいる	12.1	5.8	20.0	14.3
職場に障がいに応じた設備がある	10.3	15.6	4.6	9.5
あいさつやコミュニケーションなどの社会生活を送るための訓練・指導	6.5	0.6	15.4	9.5
その他	19.9	27.7	27.7	15.0
不明・無回答	17.3	22.0	18.5	10.9

問 16 これまでに、会社などで働いたことはあるが、働き続けられずに退職した経験はありますか

会社などにおける退職経験の有無についてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人では「ない」がそれぞれ 47.5%、55.2%で高くなっている一方、精神障がいのある人では「ある」が 71.8%で高くなっています。



問 16-1 ☆問 16 で「ある」に○をされた方
退職した理由を教えてください

退職した理由についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「健康上の理由で仕事を続けられなかった」が最も高く、それぞれ 54.8%、62.5%となっています。知的障がいのある人では、「周囲とのコミュニケーションがうまくとれなかった」が最も高く 51.6%となっています。

	全体 (N=598)	身体 (N=219)	知的 (N=64)	精神 (N=275)
健康上の理由で仕事を続けられなかった	55.4	54.8	17.2	62.5
周囲とのコミュニケーションがうまくとれなかった	32.3	17.8	51.6	39.3
障がいに対する周囲の理解や配慮が得られなかった	25.3	21.9	39.1	29.1
会社が定める規則や時間に合わせて働くことが難しかった	20.1	12.8	9.4	28.0
自身の能力に見合った仕事を与えられなかった	18.1	14.6	29.7	20.7
会社への通勤や仕事中の移動が大変だった	13.0	15.1	14.1	13.5
勤務先に、自身の障がいに対応できる設備がなかった	7.2	6.8	9.4	8.0
その他	17.4	16.0	21.9	16.4
不明・無回答	1.2	0.5	-	0.4

問 17 あなたは障がいのある人の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか

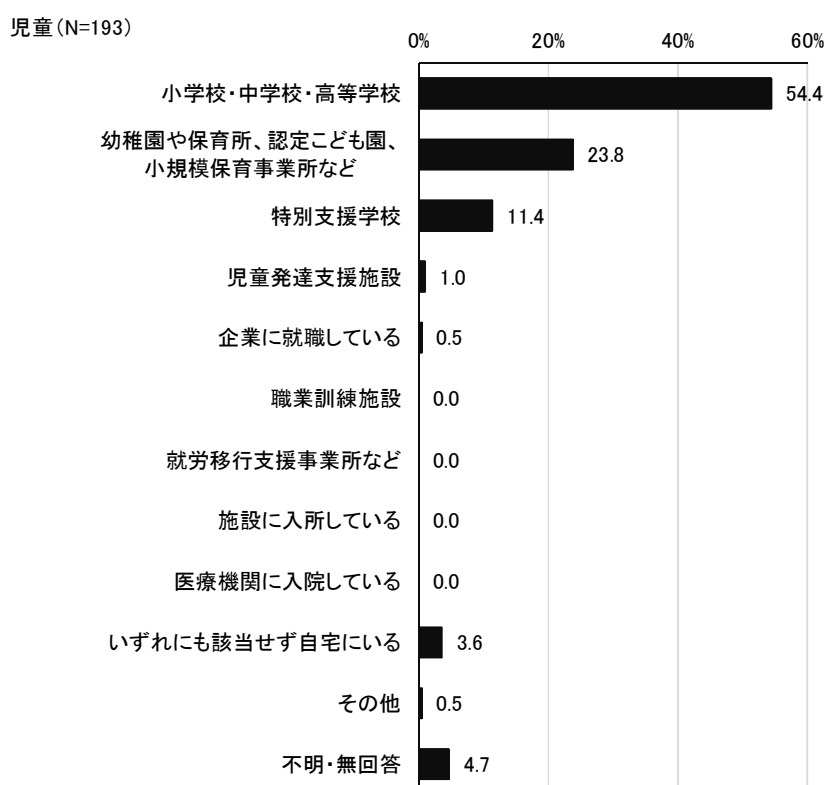
障がいのある人の就労支援として必要なことについてみると、いずれの障がいにおいても「職場の障がいについての理解」が最も高く、約5割半ば～6割半ばとなっています。

	全体 (N=1,194)	身体 (N=501)	知的 (N=268)	精神 (N=383)
職場の障がいについての理解	58.6	55.9	53.0	64.5
短時間勤務や勤務日数、時間差出勤などの配慮	38.7	35.1	20.9	49.9
通勤手段の確保	35.4	37.5	38.8	31.3
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	30.1	23.0	35.4	34.7
仕事についての職場以外での相談対応、支援	29.2	21.8	25.7	39.4
職場で介助や援助などが受けられること	25.0	26.1	30.2	23.8
勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	24.6	36.1	14.2	16.7
在宅勤務の拡充	24.2	23.8	9.3	32.6
気軽に参加できる就職面接会の開催	21.4	18.4	15.3	27.7
企業のニーズに合った就労訓練	18.8	18.0	16.8	21.7
その他	6.7	6.4	6.0	8.1
不明・無回答	11.0	11.4	19.0	7.8

◆問 18～問 20 は、18 歳以下の方が回答

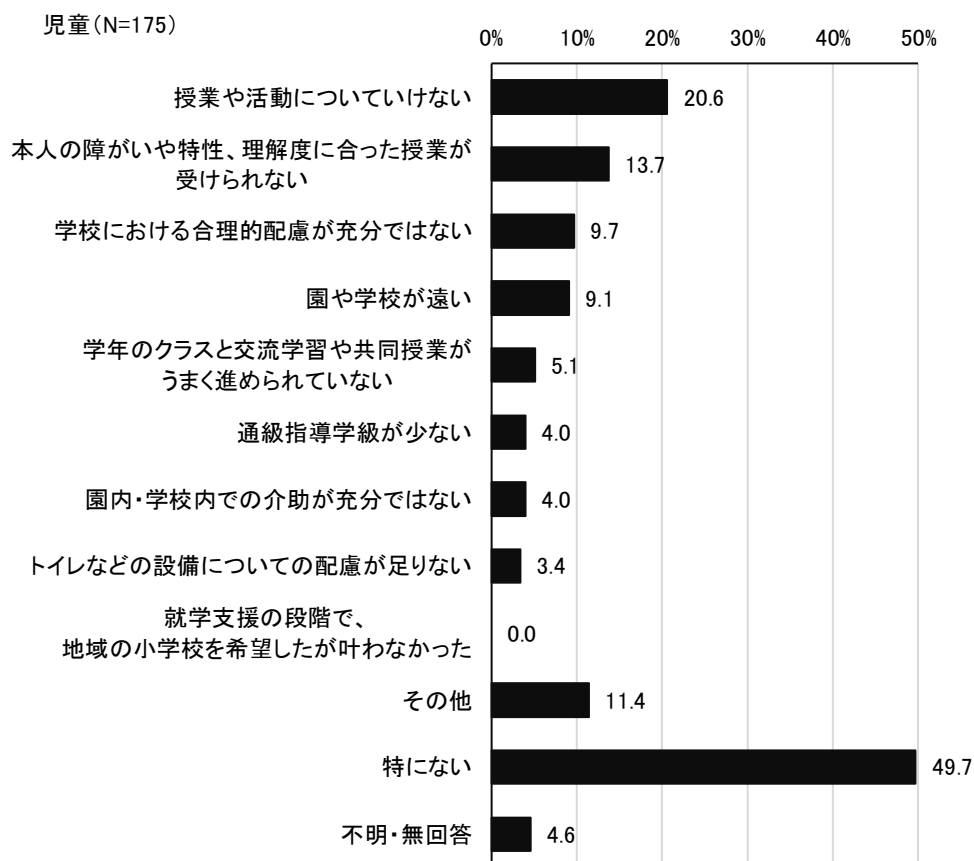
問 18 現在の主な日中の居場所はどこですか

障がいのある児童の主な日中の居場所についてみると、「小学校・中学校・高等学校」が 54.4% で最も高く、次いで「幼稚園や保育所、認定こども園、小規模保育事業所など」が 23.8% となっています。



問 18－ 1 ☆問 18 で「児童発達支援施設」、「幼稚園や保育所、認定こども園、小規模保育事業所など」、「特別支援学校」、「小学校・中学校・高等学校」に○をされた方困っていることは何ですか

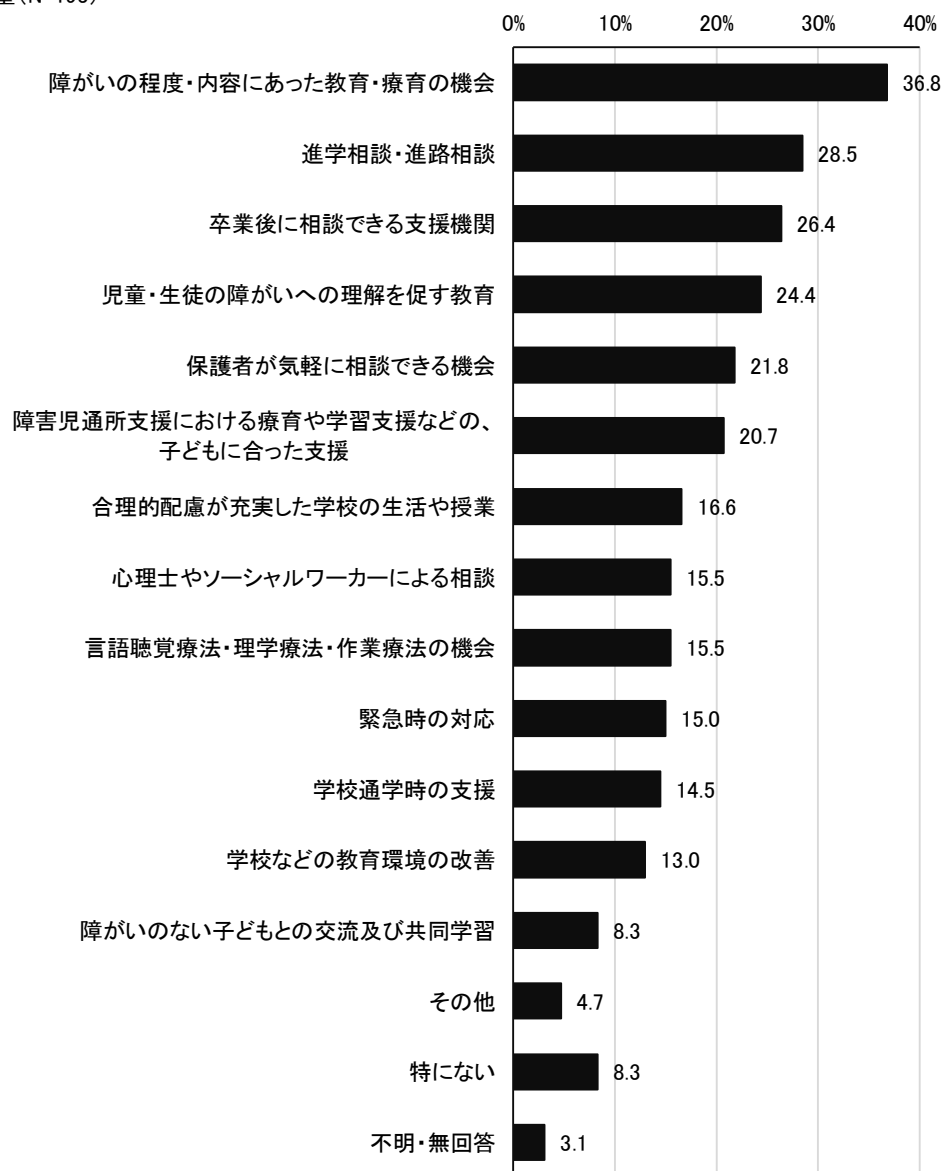
困っていることについてみると、「特にない」が 49.7%で最も高く、次いで「授業や活動についていけない」が 20.6%となっています。



問 19 今後、充実させてほしい支援は何ですか

今後、充実させてほしい支援についてみると、「障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会」が36.8%で最も高く、次いで「進学相談・進路相談」が28.5%となっています。

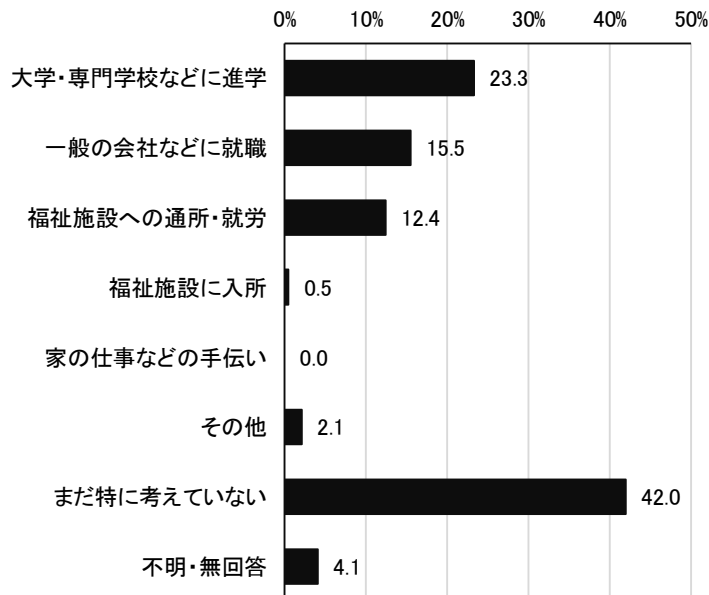
児童(N=193)



問 20 あなたが18歳になったときのことについて何かお考えですか

18歳になったときのことについてみると、「まだ特に考えていない」が42.0%で最も高く、次いで「大学・専門学校などに進学」が23.3%となっています。

児童(N=193)

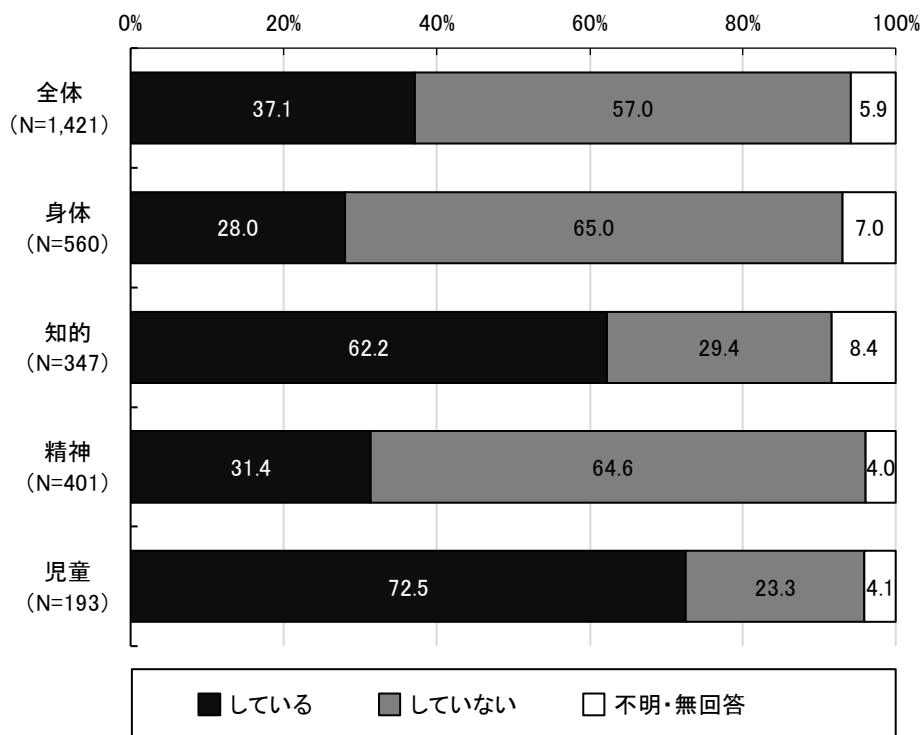


3. サービスの利用について

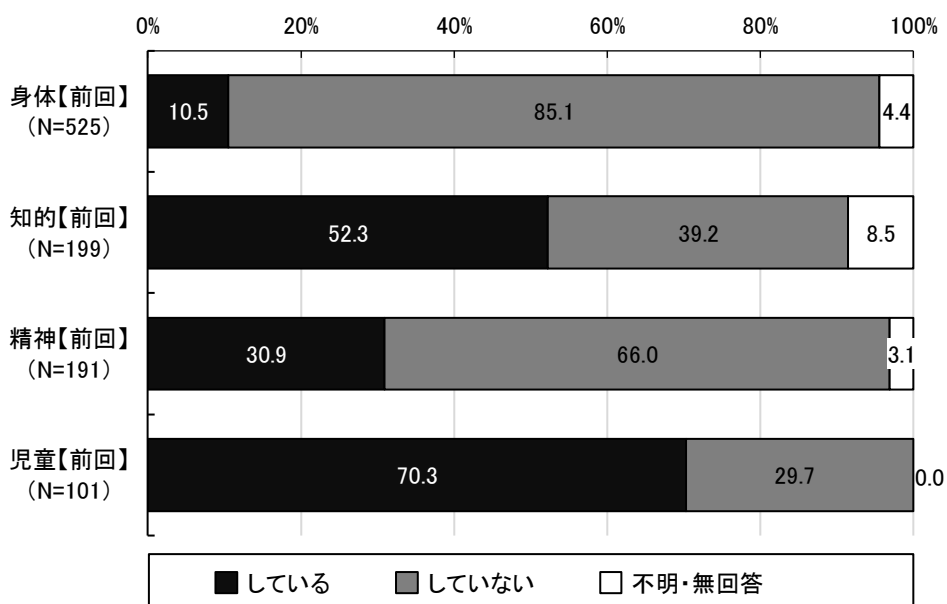
問 21 現在、障がい福祉サービス、障害児通所支援等の福祉サービスを利用していますか

障がい福祉サービス、障害児通所支援等の福祉サービスの利用状況についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「していない」が6割半ば、知的障がいのある人・障がいのある児童では「している」が約6割～7割となっています。

前回調査と「している」について比較すると、身体障がいのある人・知的障がいのある人において大きく上昇しており、それぞれ17.5ポイント、9.9ポイント増加しています。



● 前回調査



問 21-1 ☆問 21 で「していない」に○をされた方

現在、障がい福祉サービス、障害児通所支援等を利用していない理由は何ですか

障がい福祉サービス、障害児通所支援等を利用していない理由についてみると、いずれの障がいにおいても「必要を感じないから」が最も高く、約4割～5割半ばとなっており、次いで「家族などの介助で十分だから」が2割半ば～約3割となっています。

	全体 (N=810)	身体 (N=364)	知的 (N=102)	精神 (N=259)	児童 (N=45)
必要を感じないから	50.7	55.5	38.2	40.9	55.6
家族などの介助で十分だから	24.2	26.9	24.5	25.9	28.9
制度やサービスのことを知らないから	18.3	17.0	13.7	23.9	13.3
利用の仕方がわからないから	16.5	13.5	17.6	23.6	11.1
困っていることを解消するサービスがないから	10.9	6.9	15.7	15.4	15.6
他人に家庭に入ってきてほしくないから	8.5	6.3	9.8	12.7	4.4
他人の世話になるのは抵抗を感じるから	7.7	6.3	8.8	10.0	2.2
障がい福祉サービス、障害児通所支援を利用する金銭的な余裕がないから	7.0	4.9	5.9	11.2	4.4
障がい福祉サービス、障害児通所支援を利用することに抵抗を感じるから	3.5	1.6	2.0	5.8	2.2
介護保険サービスを利用しているから	2.5	4.9	-	0.8	-
家の人が反対するから	2.1	1.6	2.0	3.9	-
利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから	0.6	0.3	2.0	0.8	2.2
その他	8.6	5.8	10.8	13.1	15.6
不明・無回答	2.5	1.6	3.9	2.3	2.2

問 22 今後もっと充実してほしいと思う障がい福祉サービス、障害児通所支援等は何ですか

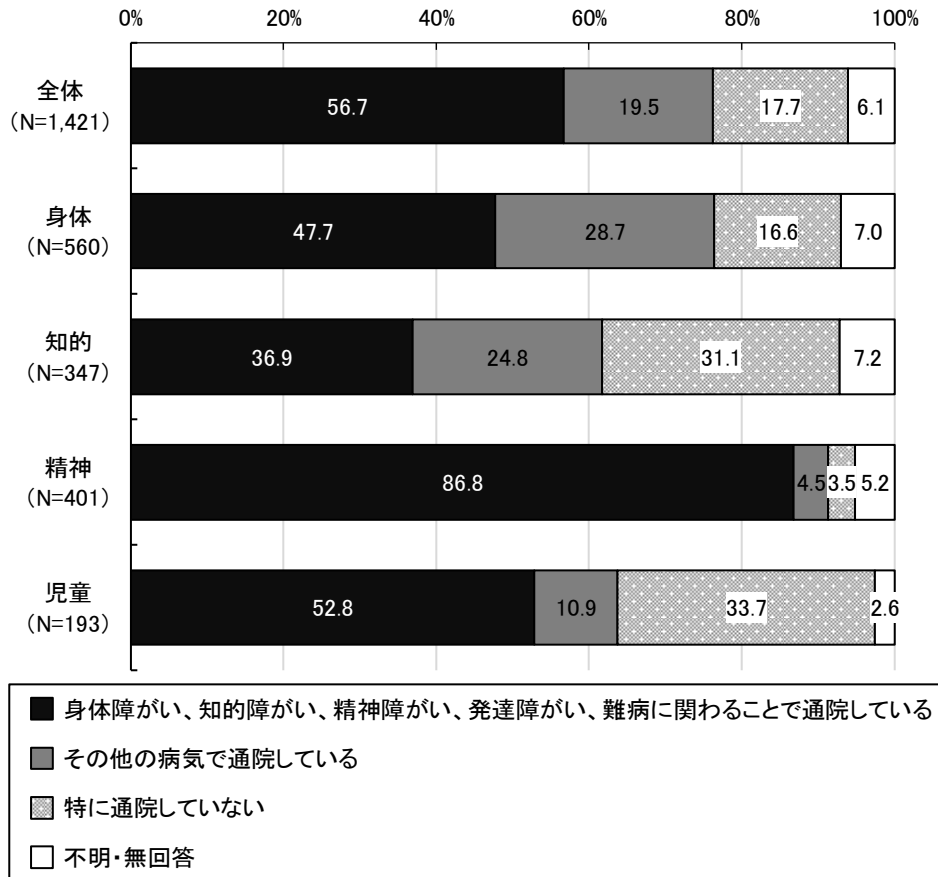
今後もっと充実してほしいと思う障がい福祉サービス、障害児通所支援等についてみると、身体障がいのある人では「特にない」が 23.4%、知的障がいのある人では「グループホーム」が 28.2%、精神障がいのある人では「就労移行支援・就労継続支援 A・B」が 28.2%、障がいのある児童では「放課後等デイサービス」が 38.3%で最も高くなっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
就労移行支援・就労継続支援A・B	19.0	14.8	19.0	28.2	12.4
相談支援	18.6	16.3	13.5	26.4	7.3
自立生活援助	17.5	11.4	19.6	24.9	13.5
就労定着支援	16.0	13.0	13.5	23.4	10.9
移動支援・行動援護・同行援護	15.9	18.8	17.9	14.5	8.8
自立訓練	15.2	11.4	15.0	19.7	17.1
生活介護	13.1	15.9	15.0	13.2	7.8
グループホーム	12.9	9.1	28.2	10.5	6.2
短期入所	11.7	13.4	21.3	7.5	8.8
施設入所支援	11.3	12.1	20.2	8.0	1.0
放課後等デイサービス	10.0	7.1	11.0	6.0	38.3
児童発達支援	9.6	6.8	10.4	6.7	36.8
計画相談支援	9.1	6.6	7.5	14.2	5.7
障害児相談支援	8.2	7.0	8.1	7.2	20.7
居宅介護・重度訪問介護	8.1	10.7	6.1	7.2	3.1
日中一時支援事業	8.1	7.5	13.8	7.2	8.8
意思疎通支援	6.5	4.1	5.8	11.7	2.6
地域定着支援	5.4	4.1	6.1	6.7	2.6
療養介護	5.3	6.1	4.6	5.2	0.5
重度障害者等包括支援	5.1	6.4	6.9	4.7	1.0
医療型児童発達支援	4.6	3.9	4.3	4.5	9.3
訪問入浴	4.2	6.8	3.2	3.0	1.0
地域移行支援	4.1	2.7	4.3	6.0	1.0
保育所等訪問支援	4.0	2.9	3.5	3.7	13.0
福祉型障害児入所支援	4.0	3.8	3.7	4.0	4.1
居宅型児童発達支援	3.7	2.9	3.5	3.7	6.7
医療型障害児入所支援	3.6	3.8	2.9	3.2	2.6
その他	5.0	4.6	3.5	7.7	4.7
特にない	20.8	23.4	13.0	18.5	15.5
不明・無回答	13.0	14.6	13.5	11.0	8.8

4. 医療について

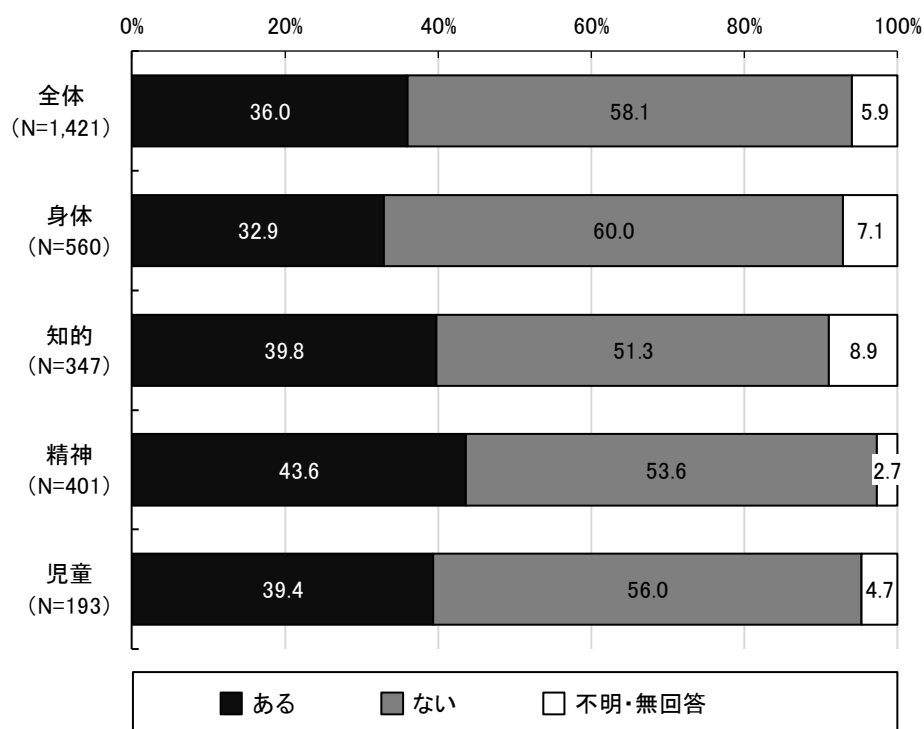
問 23 現在、病院に通院していますか

通院の有無についてみると、いずれの障がいにおいても「身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、難病に関わることで通院している」が最も高く、3割半ば～8割半ばとなっています。



問 24 病院に行ったり、医療を受ける際に、困っていることはありますか

病院に行ったり、医療を受ける際に困っていることについてみると、「ある」が約3割～4割半ばとなっています。



問 24-1 ☆問 24 で「ある」に○をされた方

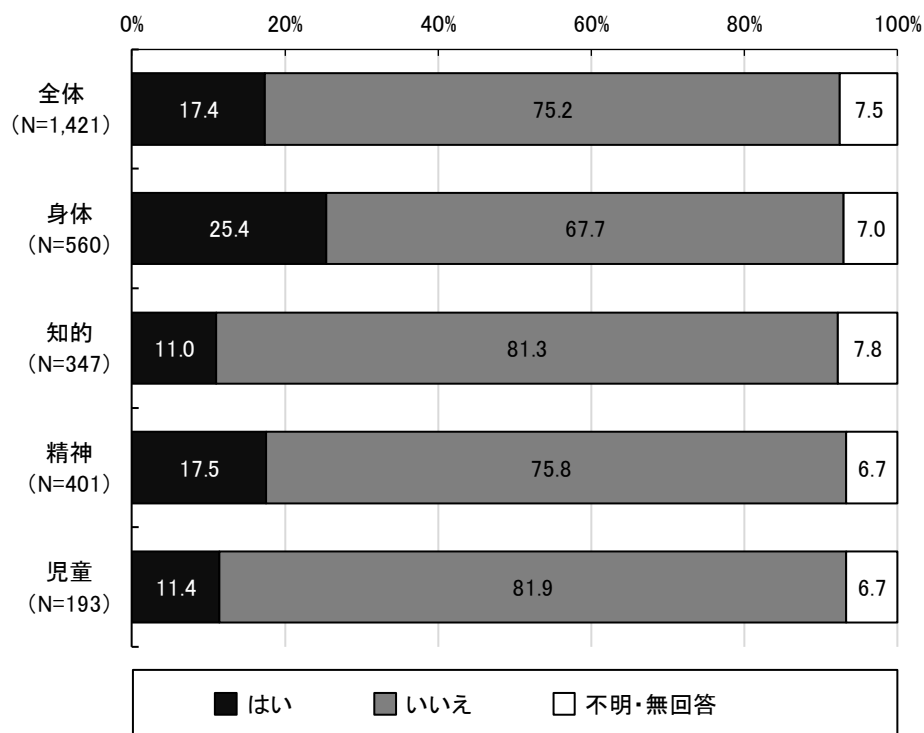
病院に行ったり、医療を受ける際の困りごとについて、具体的に教えてください

病院に行ったり、医療を受ける際の具体的な困りごとについてみると、身体障がいのある人では「医療費の負担が大きい」が 28.3%、知的障がいのある人では「障がいのため症状を正確に伝えられない」が 40.6%、精神障がいのある人では「医療費の負担が大きい」が 32.6%、障がいのある児童では「居住地域に病院がない」が 60.5%で最も高くなっています。

	全体 (N=511)	身体 (N=184)	知的 (N=138)	精神 (N=175)	児童 (N=76)
居住地域に病院がない	27.4	18.5	29.7	31.4	60.5
医療費の負担が大きい	26.4	28.3	14.5	32.6	14.5
障がいのため症状を正確に伝えられない	25.8	16.3	40.6	30.9	11.8
通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	11.4	14.7	14.5	9.1	10.5
気軽に往診を頼める医師がいない	11.4	15.2	13.0	11.4	6.6
医師の説明がよくわからない	11.0	7.1	14.5	13.7	3.9
障がいに関心してもらえない	9.4	10.3	13.8	10.9	10.5
通院しようと思っても、病院がバリアフリーになっていない	2.0	4.3	2.9	0.6	1.3
その他	25.8	26.6	20.3	25.1	25.0
特に困ったことはない	6.5	8.2	8.7	3.4	5.3
不明・無回答	0.8	1.6	-	0.6	-

問 25 あなたは、医療的ケアを受けていますか

医療的ケアを受けているかについてみると、「はい」が1割～2割半ばとなっています。



問 25-1 ☆問 25 で「はい」に○をされた方

あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください

現在受けている医療的ケアについてみると、いずれの障がいにおいても「服薬管理」が最も高く4割～7割となっています。

	全体 (N=247)	身体 (N=142)	知的 (N=38)	精神 (N=70)	児童 (N=22)
服薬管理	53.8	42.3	55.3	71.4	63.6
インスリン注射	9.7	12.7	10.5	7.1	4.5
人工透析	8.9	15.5	-	-	-
胃ろう・腸ろう	6.9	10.6	10.5	1.4	9.1
在宅酸素	3.6	6.3	2.6	-	13.6
カテーテル留置	3.6	6.3	2.6	-	-
ストーマ(人工肛門・人工膀胱)	3.6	5.6	-	2.9	-
吸引	3.2	5.6	5.3	-	4.5
気管切開	1.2	2.1	2.6	-	4.5
人工呼吸器(レスピレーター)	1.2	2.1	2.6	-	4.5
吸入	0.8	-	-	2.9	-
鼻腔経管栄養	0.8	1.4	-	-	4.5
中心静脈栄養 (IVH)	0.4	0.7	-	-	-
その他	21.1	19.0	26.3	21.4	27.3
不明・無回答	3.2	2.8	2.6	4.3	-

5. 相談・情報について

問 26 あなたは普段、悩みや困りごとをどなたに相談しますか

悩みや困りごとの日常的な相談相手についてみると、いずれの障がいにおいても「家族や親戚」が最も高く、約6割半ば～8割となっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
家族や親戚	65.7	63.9	64.3	63.8	79.8
かかりつけの医師や看護師	27.2	24.3	14.1	42.6	16.1
「同じ障がいのある人」以外の友人・知人	18.2	18.4	9.5	19.7	20.2
施設の指導員	12.5	8.8	27.1	9.5	13.5
相談支援専門員	12.0	8.8	20.5	14.7	11.9
同じ障がいのある人	11.1	11.6	10.7	13.5	9.3
職場の上司や同僚	8.4	7.1	9.2	10.7	3.1
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	7.1	3.8	12.1	2.2	40.9
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	4.8	6.4	1.7	6.0	0.5
行政機関の相談窓口	4.4	4.5	4.9	4.7	2.6
ホームヘルパーなどのサービス事業所の人	4.3	5.7	5.8	4.5	2.1
近所の人	2.5	1.6	2.3	3.5	2.1
障がい者団体や家族会	1.5	2.1	2.9	1.2	4.1
民間の相談窓口	1.2	0.9	1.2	2.0	0.5
民生委員・児童委員	1.1	0.9	1.4	2.0	0.5
その他	5.4	4.1	5.2	8.5	5.2
相談したことがない	10.4	12.9	8.9	9.5	5.7
不明・無回答	3.6	4.3	4.9	2.0	3.6

問 27 現在、気になることはどのようなことですか

現在気になることについてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「自分の障がいや病気に関すること」がそれぞれ 45.9%、58.6%、知的障がいのある人では「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活のこと」が 62.8%、障がいのある児童では「進学や就職のこと」が 59.1% で最も高くなっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
家族からの自立・家族がいなくなったときの生活のこと	45.9	37.1	62.8	52.9	49.2
自分の障がいや病気に関すること	42.0	45.9	21.9	58.6	25.9
災害などの緊急時の対応のこと	28.1	30.7	31.1	30.7	24.4
家族以外の人との人間関係のこと	24.8	11.6	23.6	36.7	38.9
金銭管理のこと	22.7	13.4	32.6	27.9	17.6
職場や仕事のこと	21.7	18.6	15.0	29.7	10.4
進学や就職のこと	16.9	9.1	18.4	19.2	59.1
利用できる福祉制度やサービスのこと	16.7	16.3	16.4	23.4	14.5
夜間や休日などの緊急時の対応のこと	15.7	17.0	16.4	18.7	9.8
家族との人間関係のこと	13.9	7.0	9.5	24.9	7.8
成年後見制度に関すること	7.9	3.4	18.4	7.0	9.3
療育・訓練の機会のこと	6.3	3.6	8.6	6.2	24.4
学校・園における適切な支援のこと	5.6	2.9	7.2	1.7	32.6
その他	3.2	2.9	2.3	4.2	1.6
特にない	11.1	14.6	11.0	4.5	10.9
不明・無回答	4.4	7.0	4.6	1.2	1.6

問 28 緊急時に何があれば安心と思いますか

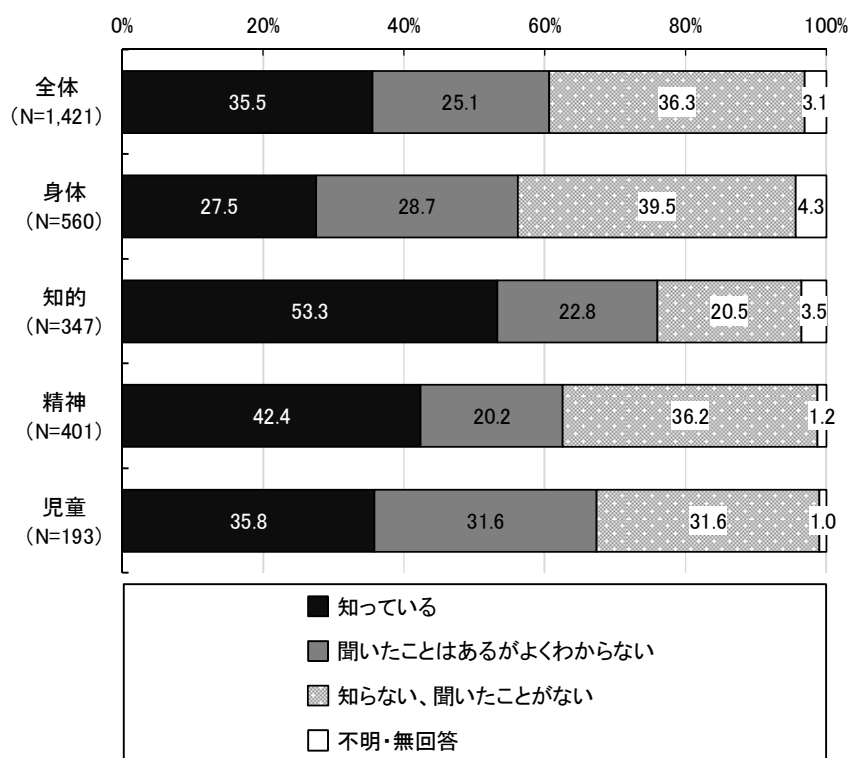
緊急時にあれば安心できることについてみると、身体障がいのある人では「24 時間対応の相談支援体制」が 29.3%、知的障がいのある人では「いつでも利用できる短期入所施設」が 33.1%、精神障がいのある人では「精神科医療が受けられる体制」が 44.1%、障がいのある児童では「発達障がい等に対応できる体制」が 34.2%で最も高くなっています。

	全体 (N=1,421)	身体 (N=560)	知的 (N=347)	精神 (N=401)	児童 (N=193)
24時間対応の相談支援体制	25.8	29.3	20.5	29.7	17.1
不安なときに話を聴いてもらえる体制	19.1	12.5	14.4	28.7	15.0
お金の確保や支払支援	18.4	15.0	15.9	25.7	12.4
緊急事態に気づいてくれる人	18.2	19.8	17.6	17.5	14.0
精神科医療が受けられる体制	17.3	4.3	4.6	44.1	4.7
いつでも利用できる短期入所施設	17.2	19.5	33.1	10.5	16.1
日中に安心して過ごせる場所	16.3	10.9	21.6	17.5	28.5
食事や生活必需品の確保体制	15.1	16.1	15.3	17.0	9.3
支援に必要な情報を伝える体制	12.7	13.6	10.7	12.2	17.6
外出や移動のための支援体制	12.0	15.0	12.1	11.0	9.8
24時間対応のヘルパー支援体制	11.0	14.8	13.0	9.2	6.2
福祉避難所の体制	10.8	12.5	16.7	8.0	12.4
発達障がい等に対応できる体制	9.9	2.9	16.1	11.2	34.2
支援を組立ててくれる相談支援	7.3	6.3	9.2	7.7	6.7
地域住民の理解	7.2	6.1	7.5	9.2	8.3
24時間の見守りや安全の確保	6.8	6.4	8.6	5.2	8.8
行動障がい等に対応できる体制	3.5	4.3	2.9	3.2	6.2
在宅医療ケアの体制	3.3	5.2	2.3	2.7	1.6
家での早朝夜間の見守り支援体制	2.8	3.4	4.0	2.2	4.7
その他	3.2	3.4	2.0	4.5	0.5
不明・無回答	10.1	12.0	11.8	6.0	11.4

問 29 障害者相談支援センターを知っていますか

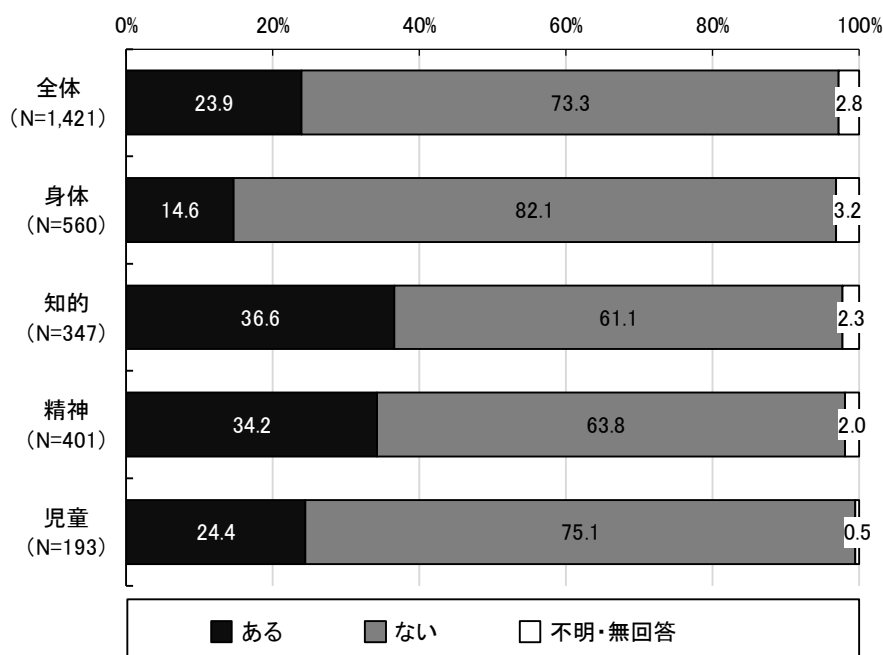
(伊勢市障害者総合相談支援センターフクシア・伊勢市障害者西地域相談支援センターアルク・伊勢市障害者東地域相談支援センターリンク)

障害者相談支援センターの認知度についてみると、身体障がいのある人では「知らない、聞いたことがない」が39.5%、知的障がいのある人・精神障がいのある人・障がいのある児童では「知っている」が最も高くなっており、それぞれ53.3%、42.4%、35.8%となっています。



問 30 障害者相談支援センターに相談をしたことがありますか

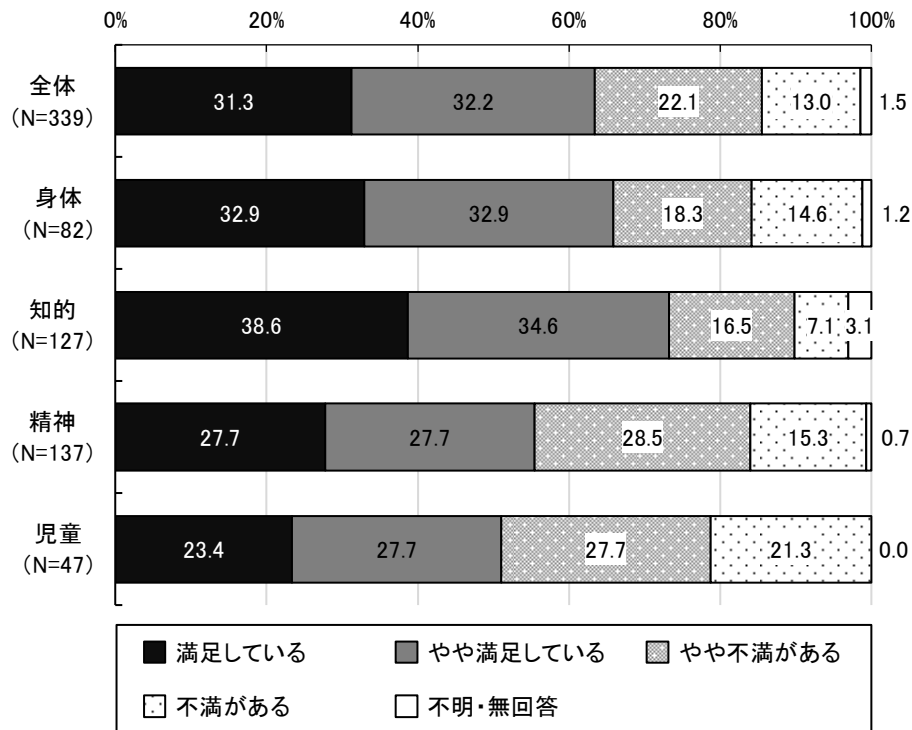
障害者相談支援センターへの相談経験についてみると、「ある」が1割半ば～3割半ばとなっており、知的障がいのある人で最も高くなっています。



問 30-1 ☆問 30 で「ある」に○をされた方

障害者相談支援センターについて満足していますか

障害者相談支援センターの満足度についてみると、「満足している」と「やや満足している」の合計である『満足している』は、5割～7割となっています。



問 30-2 ☆問 30-1 で「やや不満がある」もしくは「不満がある」に○をされた方

どのような点に不満を感じましたか

不満を感じた点についてみると、いずれの障がいにおいても「困っていることが解消されない」が最も高く、4割～6割となっています。

	全体 (N=119)	身体 (N=27)	知的 (N=30)	精神 (N=60)	児童 (N=23)
困っていることが解消されない	55.5	55.6	43.3	61.7	60.9
相談員が十分な知識を持っていない	28.6	33.3	26.7	31.7	52.2
対応が遅い	25.2	33.3	33.3	25.0	39.1
相談員がいないことが多い	21.0	14.8	13.3	25.0	17.4
相談員が話をよく聴いてくれない	17.6	7.4	20.0	23.3	34.8
相談員がよく替わる	17.6	7.4	23.3	16.7	8.7
自分の意見を尊重してくれない	16.8	14.8	13.3	20.0	21.7
電話がつながりにくい	16.8	7.4	16.7	21.7	13.0
相談室のプライバシーが保たれていない	8.4	11.1	6.7	10.0	13.0
その他	18.5	11.1	16.7	20.0	8.7
不明・無回答	3.4	7.4	3.3	3.3	-

問 30-3 ☆問 30 で「ない」に○をされた方
相談したことがない理由は何ですか

相談したことがない理由についてみると、身体障がいのある人では「相談したいことがないから」が 32.4%、知的障がいのある人では「特に理由はない」が 27.8%、精神障がいのある人では「どこに相談したらいいかわからないから」が 27.3%、障がいのある児童では「障がいや病気のため、出向けないから」が 60.9%で最も高くなっています。

	全体(N=1,042)	身体(N=460)	知的(N=212)	精神(N=256)	児童(N=145)
相談したいことがないから	28.8	32.4	25.0	22.3	52.2
どこに相談したらいいかわからないから	20.1	19.1	14.2	27.3	21.7
他に相談にのってくれる人がいるから	13.9	13.5	17.0	14.5	34.8
相談しても解決しないから	12.1	9.6	11.3	20.7	13.0
相談できる場所が近くにないから	4.6	4.3	3.8	5.9	8.7
障がいや病気のため、出向けないから	3.5	4.6	2.4	3.5	60.9
その他	6.5	4.6	6.1	8.6	13.0
特に理由はない	25.0	23.5	27.8	21.1	17.4
不明・無回答	6.7	8.0	9.9	6.6	39.1

問 31 市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか

市内における今後の相談支援体制で望むことについてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人・精神障がいのある人では「緊急時に対応してくれる相談窓口」が3割半ば～4割、障がいのある児童では「家族の悩みを受け止めてくれる家族相談員」が約3割で最も高くなっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
緊急時に対応してくれる相談窓口	34.6	35.5	41.2	34.9	26.4
障がいに関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談	28.3	30.4	27.7	32.7	29.5
福祉の専門職を配置した相談窓口の整備	23.2	21.3	26.5	26.7	22.8
家族の悩みを受け止めてくれる家族相談員	22.1	15.7	29.4	24.7	31.6
休日や夜間の電話相談	21.5	20.9	17.3	28.4	11.9
メールやLineなどでの相談	16.2	14.3	10.4	21.7	17.6
アウトリーチ(自宅などへの訪問)	7.6	5.9	8.6	10.7	8.3
ピアカウンセリング	6.7	3.8	5.2	12.5	4.7
その他	3.0	2.3	2.3	4.2	2.1
特になし	18.5	20.2	13.5	15.2	23.3
不明・無回答	7.8	8.0	8.4	8.0	0.5

問 32 福祉に関する情報をどのようなところから得ていますか

福祉に関する情報の入手先についてみると、いずれの障がいにおいても「伊勢市の広報誌」が4割～4割半ばで最も高くなっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
伊勢市の広報誌	43.7	46.6	42.9	43.4	39.9
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	25.1	28.4	22.5	25.2	23.3
インターネット(市のホームページやツイッター等のSNSなど)	23.4	21.4	12.4	31.4	26.4
家族や親戚、友人・知人	18.2	18.4	19.0	17.0	23.8
かかりつけの医師や看護師	16.3	12.3	6.3	28.4	9.3
施設の指導員やホームヘルパーなどのサービス事業所の人	12.9	10.7	26.5	7.0	18.7
相談支援専門員	12.5	9.6	22.5	11.7	18.7
障がい者福祉のしおり	7.7	7.9	7.8	10.5	5.2
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	5.8	3.8	10.4	1.2	35.2
行政機関の相談窓口	5.8	3.8	6.9	5.7	7.3
町内会・自治会の回覧板	5.1	6.1	4.0	5.5	2.1
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	5.1	8.0	2.0	4.7	0.5
障がい者団体や家族会、団体の機関誌など	4.4	4.3	10.1	3.2	6.2
民生委員・児童委員	0.8	0.4	0.6	1.7	-
民間の相談窓口	0.6	0.5	0.6	0.7	0.5
その他	2.6	1.6	2.0	3.5	1.0
特になし	12.1	12.1	9.8	11.2	7.3
不明・無回答	4.4	5.2	6.3	2.7	2.1

6. 余暇活動について

●問 33、問 34 は、18 歳以上の方のみが回答

問 33 自分の楽しみに使う時間をどのように過ごしていますか

自分の楽しみに使う時間の過ごし方についてみると、いずれの障がいにおいても「家の中で過ごす」が最も高く、6割半ば～7割半ばとなっています。

	全体 (N=1,194)	身体 (N=501)	知的 (N=268)	精神 (N=383)
家の中で過ごす	68.6	63.9	67.9	73.9
買い物や散歩などに出かける	56.0	53.9	56.7	54.6
趣味やスポーツ活動などに参加する	25.0	27.3	14.9	24.0
友人・知人に会う	24.0	27.1	13.1	22.2
障がいのある人のための施設で過ごす	4.5	4.8	11.6	3.7
公民館や図書館などで過ごす	4.4	2.8	2.2	8.1
所属している団体の活動	3.6	4.2	7.8	2.1
その他	5.8	4.2	6.3	7.8
不明・無回答	6.9	8.4	10.4	3.4

問 34 平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか

平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として行ってみたいと思うところについてみると、いずれの障がいにおいても「一人で行っても安心してくつろげる場」が最も高く、4割半ば～6割となっています。

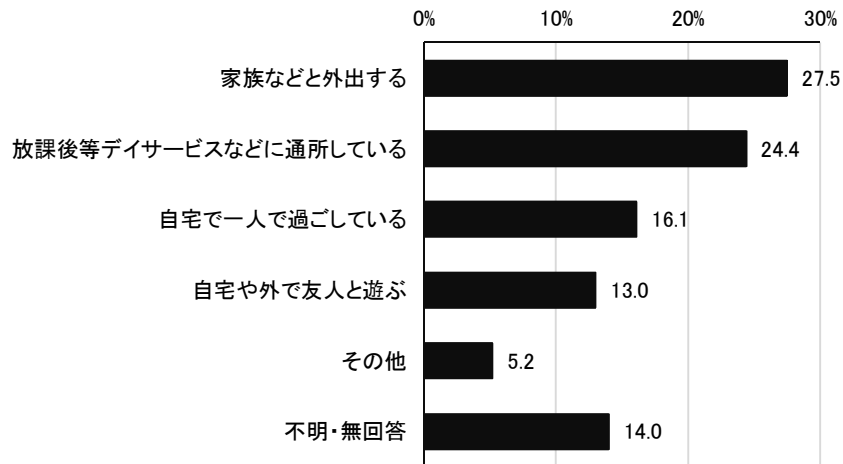
	全体 (N=1,194)	身体 (N=501)	知的 (N=268)	精神 (N=383)
一人で行っても安心してくつろげる場	54.4	51.9	44.4	61.4
生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場	27.2	20.2	19.8	38.9
障がいのある人との情報交換や活動、交流を行える場	19.0	17.6	25.7	19.6
障がいのない人と一緒にさまざまな余暇活動を行える場	16.8	16.6	17.9	16.2
ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場	9.3	8.4	6.7	10.7
その他	9.2	8.0	9.7	11.0
不明・無回答	17.4	20.2	22.8	11.5

●問 35 は、18 歳以下の方のみが回答

問 35 放課後や休日など自由な時間をどのように過ごしていますか

放課後や休日など自由な時間の過ごし方についてみると、「家族などと外出する」が最も高く 27.5% となっており、次いで「放課後等デイサービスなどに通所している」が 24.4% となっています。

児童 (N=193)

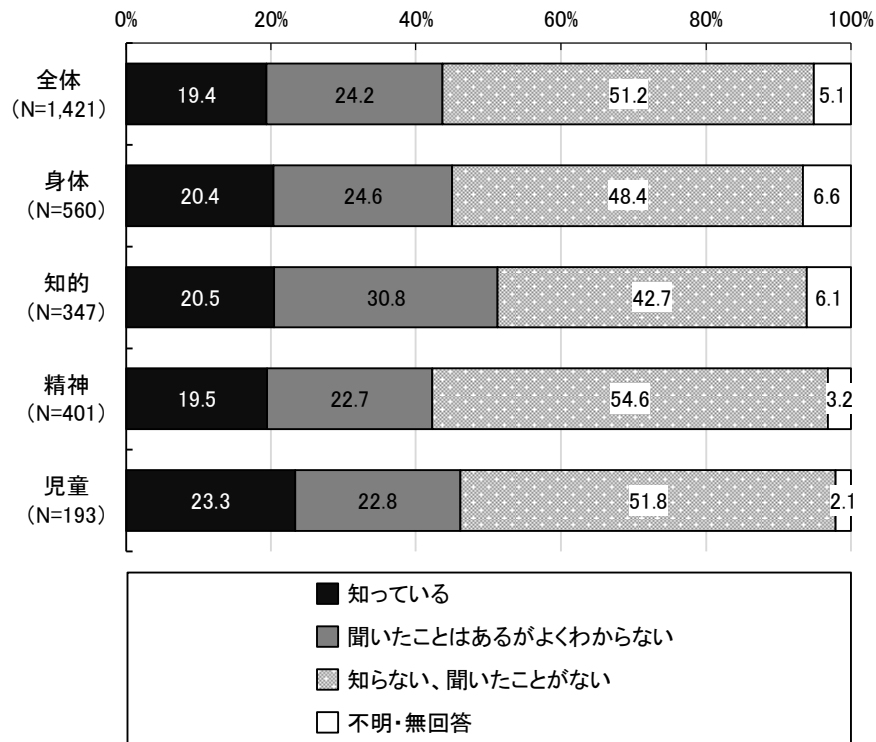


7. 一人ひとりの権利を守る取り組みについて

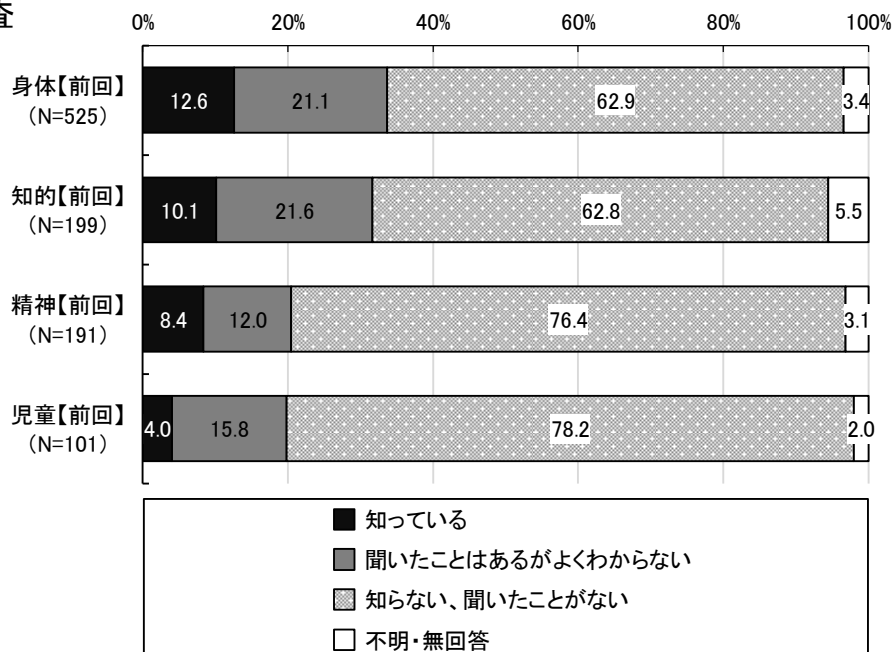
問 36 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）について
知っていますか

障害者差別解消法の認知度についてみると、「知っている」はいずれの障がいにおいても2割程度となっている一方、「知らない、聞いたことがない」は4割～5割半ばとなっています。

前回調査と比較すると、いずれの障がいにおいても認知度の向上がうかがえます。引き続き、認知度の向上に向けた継続的な取り組みが求められます。



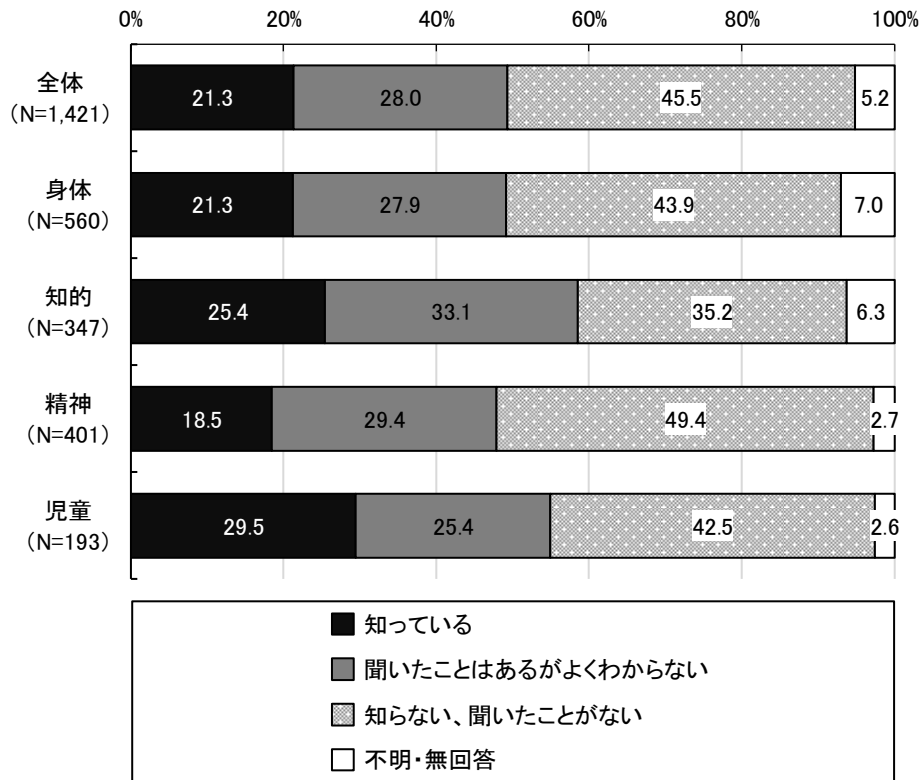
● 前回調査



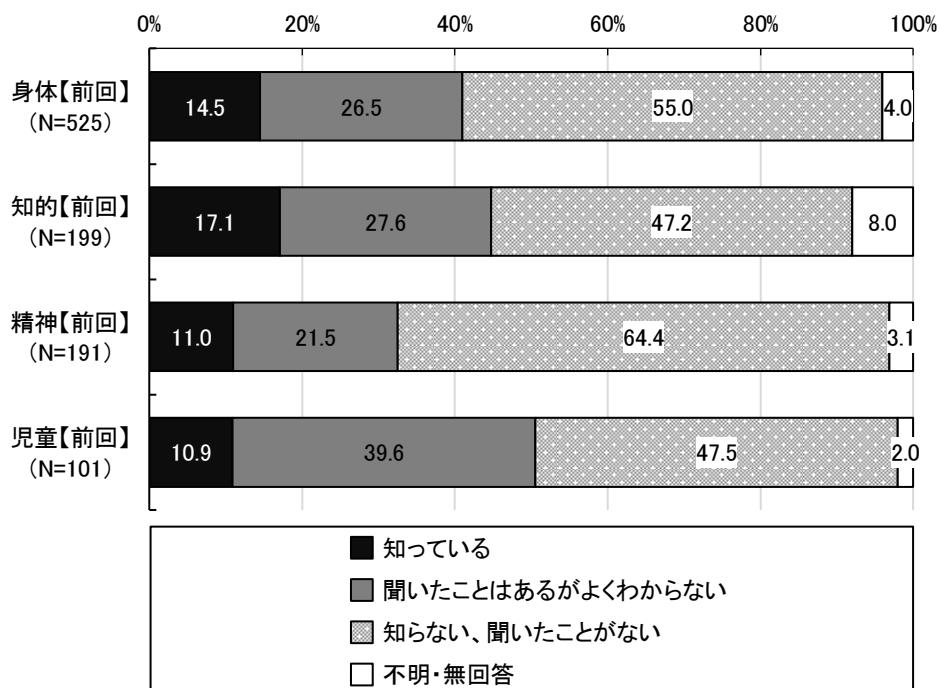
問 37 障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）について知っていますか

障害者虐待防止法の認知度についてみると、「知っている」は2割～3割程度となっており、「知らない、聞いたことがない」は3割半ば～5割となっています。

前回調査と比較すると、いずれの障がいにおいても認知度の向上がうかがえます。障がいのある児童においては、「聞いたことはあるがよくわからない」が減少し、「知っている」が増加しています。



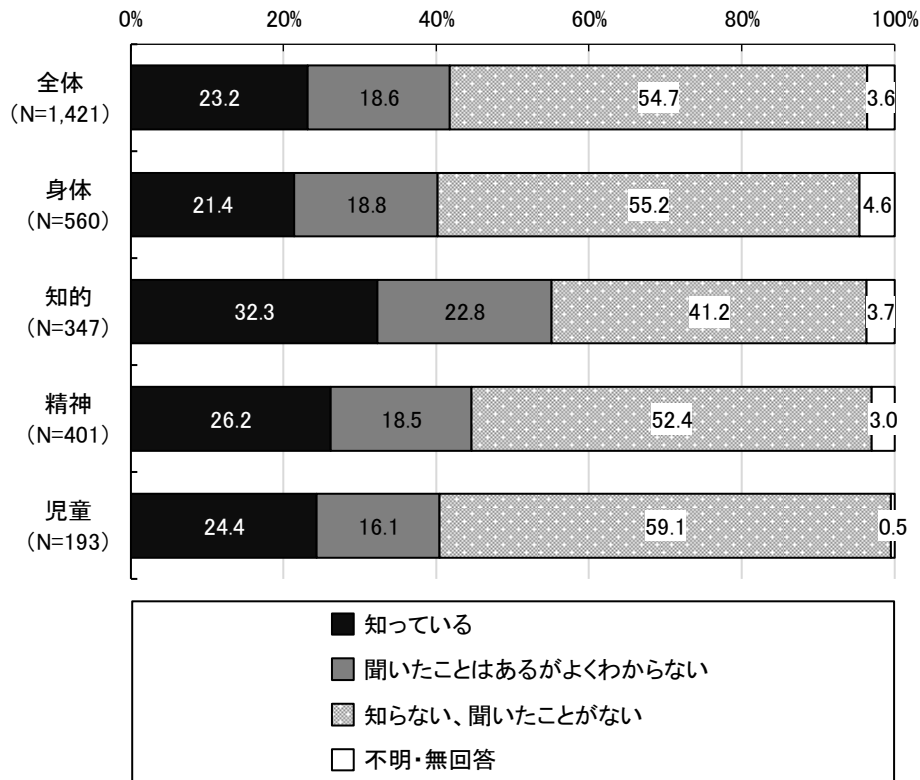
●前回調査



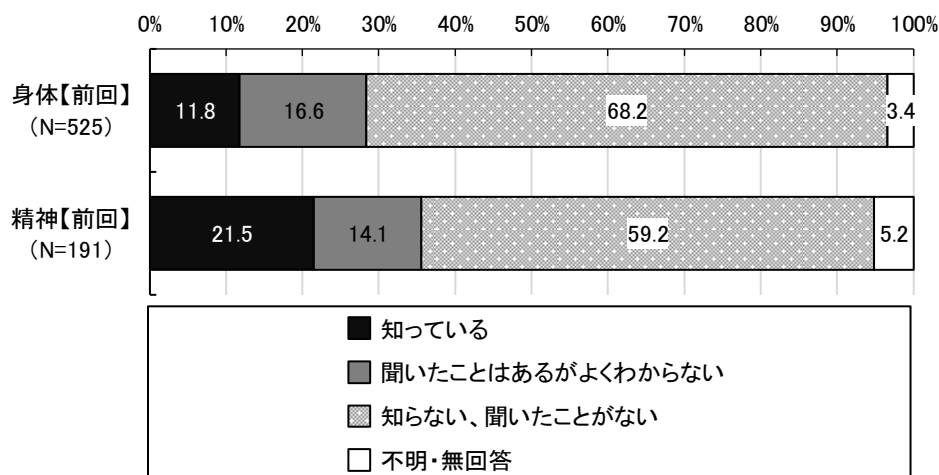
問 38 障がい者虐待に関する通報を受け付ける窓口（伊勢市役所障がい福祉課、伊勢市障害者総合相談支援センターフクシア）を知っていますか

障がい者虐待に関する通報を受け付ける窓口の認知度についてみると、「知っている」は2割～3割程度となっている一方、「知らない、聞いたことがない」は4割～6割となっています。

前回調査では、身体障がいのある人・精神障がいのある人対象の設問でしたが、その中で比較すると、いずれの障がいにおいても認知度の向上がうかがえます。



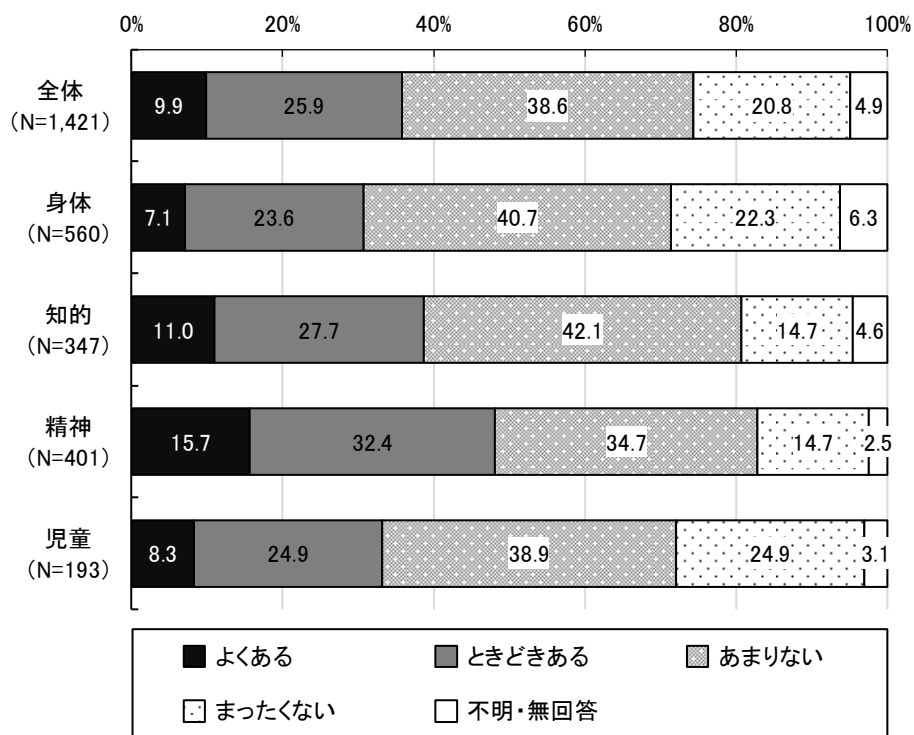
●前回調査



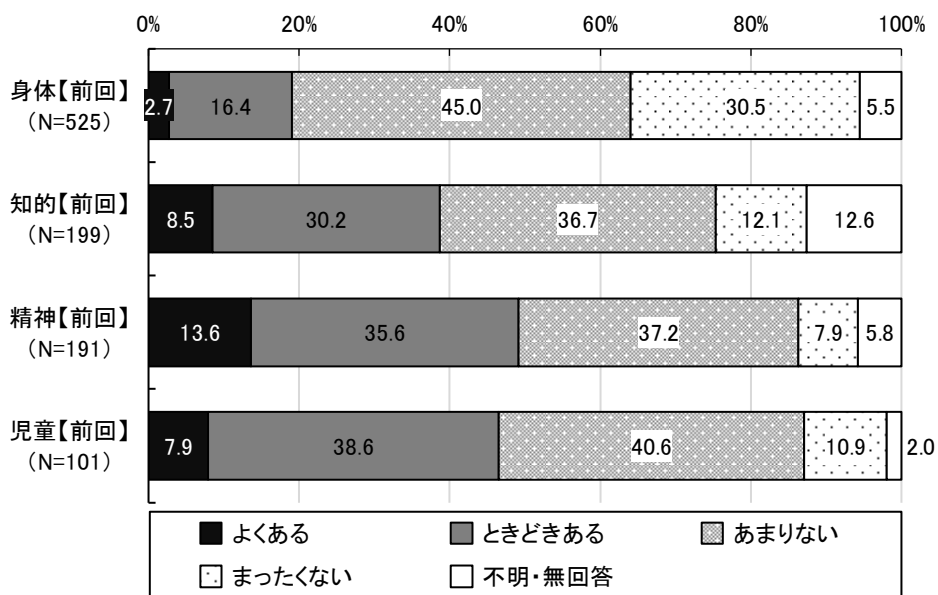
問 39 障がいがあることで、普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか

障がいがあることで、普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをした経験についてみると、「よくある」と「ときどきある」の合計である『ある』は、3割～5割近くとなっています。一方、「あまりない」と「まったくない」の合計である『ない』は、5割～6割半ばとなっています。

前回調査と比較すると、『ある』について、身体障がいのある人において11.6ポイント増加しています。一方、障がいのある児童においては13.3ポイント減少しています。



●前回調査



問 39-1 ☆問 39 で「よくある」に○をされた方

そのとき、あなたはどのような行動をとりましたか

普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたときにとった行動についてみると、いずれの障がいにおいても「何もせず我慢した」が最も高く、4割半ば～7割半ばとなっています。次いで、身体障がいのある人では「身近な人に相談した」と「相手に対応を改めるよう求めた」が27.5%で並んでおり、知的障がいのある人・精神障がいのある人・障がいのある児童では「身近な人に相談した」がそれぞれ2割半ば～4割近くとなっています。

	全体(N=140)	身体(N=40)	知的(N=38)	精神(N=63)	児童(N=16)
何もせず我慢した	67.1	65.0	73.7	57.1	43.8
身近な人に相談した	30.0	27.5	23.7	36.5	37.5
相手に対応を改めるよう求めた	20.0	27.5	15.8	22.2	25.0
行政や専門的な機関に相談した	19.3	12.5	18.4	27.0	31.3
不明・無回答	1.4	5.0	2.6	1.6	-

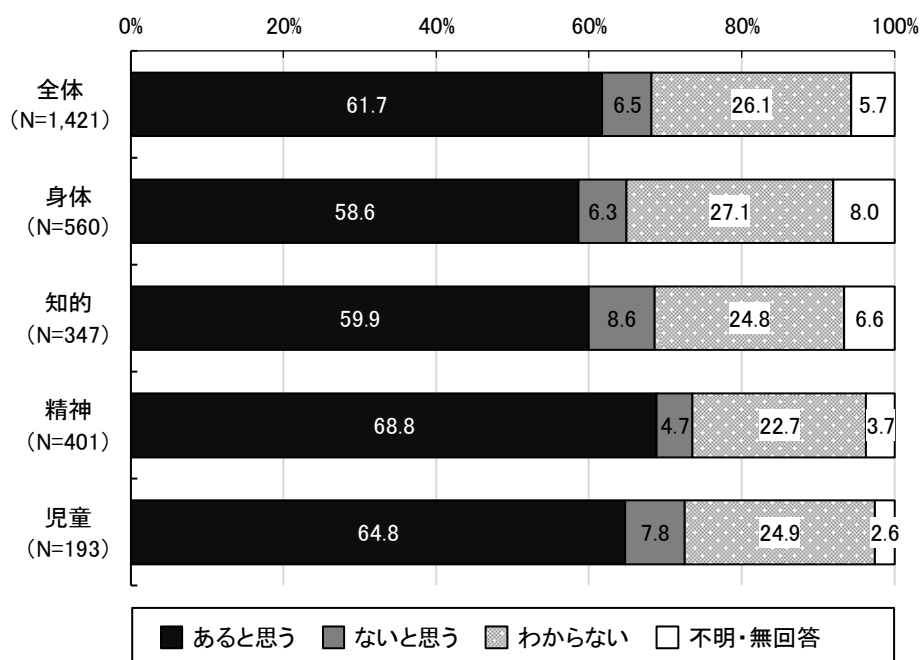
●普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたときにとった行動【経年比較】

普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたときにとった行動について、前回調査と比較すると、身体障がいのある人では「相手に対応を改めるよう求めた」が17.5ポイント増加しています。知的障がいのある人では「何もせず我慢した」が17.9ポイント増加した一方で、「身近な人に相談した」が7.5ポイント減少しています。精神障がいのある人では「相手に対応を改めるよう求めた」と「行政や専門的な機関に相談した」でそれぞれ13.7ポイント、13.2ポイント増加しています。障がいのある児童では、「行政や専門的な機関に相談した」と「相手に対応を改めるよう求めた」でそれぞれ24.9ポイント、14.4ポイント増加した一方、「身近な人に相談した」で17.8ポイント減少しています。

	身体(N=40)	知的(N=38)	精神(N=63)	児童(N=16)
	身体【前回】(N=100)	知的【前回】(N=77)	精神【前回】(N=94)	児童【前回】(N=47)
何もせず我慢した	65.0	73.7	57.1	43.8
	71.0	55.8	50.0	38.3
身近な人に相談した	27.5	23.7	36.5	37.5
	20.0	31.2	39.4	55.3
相手に対応を改めるよう求めた	27.5	15.8	22.2	25.0
	10.0	6.5	8.5	10.6
行政や専門的な機関に相談した	12.5	18.4	27.0	31.3
	6.0	5.2	13.8	6.4
不明・無回答	5.0	2.6	1.6	-
	2.0	5.2	3.2	-

問 40 障がいのある人への差別・偏見はありますか

障がいのある人への差別・偏見はあると思うかについてみると、いずれの障がいにおいても「あると思う」が最も高く、6割～7割となっています。



問 40-1 ☆問 40 で「あると思う」に○をされた方 どのようなときにそれを感じましたか

障がいのある人への差別・偏見があると感じたときのことについてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人では「仕事の内容や給料の額」がそれぞれ 43.3%、39.4%、精神障がいのある人・障がいのある児童では「職場や学校での人とのつきあい」がそれぞれ 46.4%、62.4%で最も高くなっています。

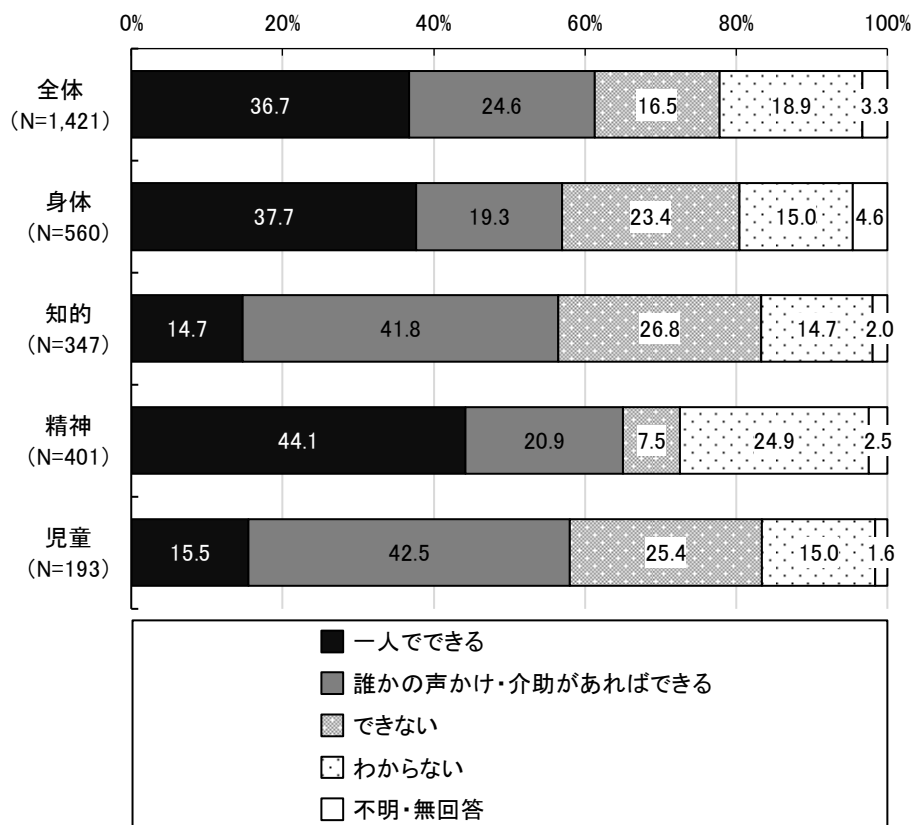
	全体 (N=877)	身体 (N=328)	知的 (N=208)	精神 (N=276)	児童 (N=125)
仕事の内容や給料の額	42.5	43.3	39.4	42.0	35.2
職場や学校での人とのつきあい	42.0	32.0	36.5	46.4	62.4
お店などでの対応	22.2	24.7	26.9	18.5	18.4
親戚関係の集まりの場	17.8	8.5	18.3	26.1	16.8
バスや電車等の交通機関を利用したとき	17.4	23.5	18.3	14.5	12.8
地域の行事や集まり	16.8	16.8	26.9	17.4	15.2
病院などの医療機関を利用したとき	14.6	13.1	16.8	16.7	9.6
市役所などの公共機関での対応	11.1	11.9	7.7	15.6	6.4
スポーツ・趣味の活動	8.9	12.2	9.1	7.6	13.6
その他	12.0	12.5	11.5	12.7	12.0
不明・無回答	2.9	4.0	1.4	2.5	2.4

8. 災害などが起こったときについて

問 41 あなたは、火事、台風や地震などの災害時に避難できますか

火事、台風や地震などの災害時の避難の可否についてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「一人でできる」がそれぞれ 37.7%、44.1%、知的障がいのある人・障がいのある児童では「誰かの声かけ・介助があればできる」がそれぞれ 41.8%、42.5%で最も高くなっています。

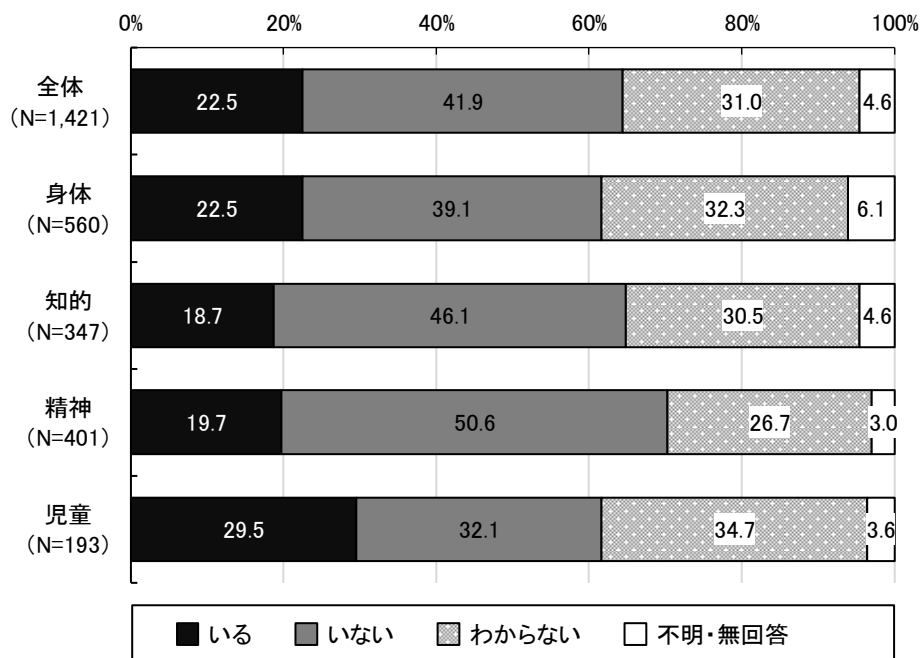
一方、「できない」については、身体障がいのある人・知的障がいのある人・障がいのある児童で 2 割半ば程度を占めています。



問 42 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか

家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所に助けてくれる人がいるかどうかについてみると、いずれの障がいにおいても「いる」が約2割～3割程度となっています。

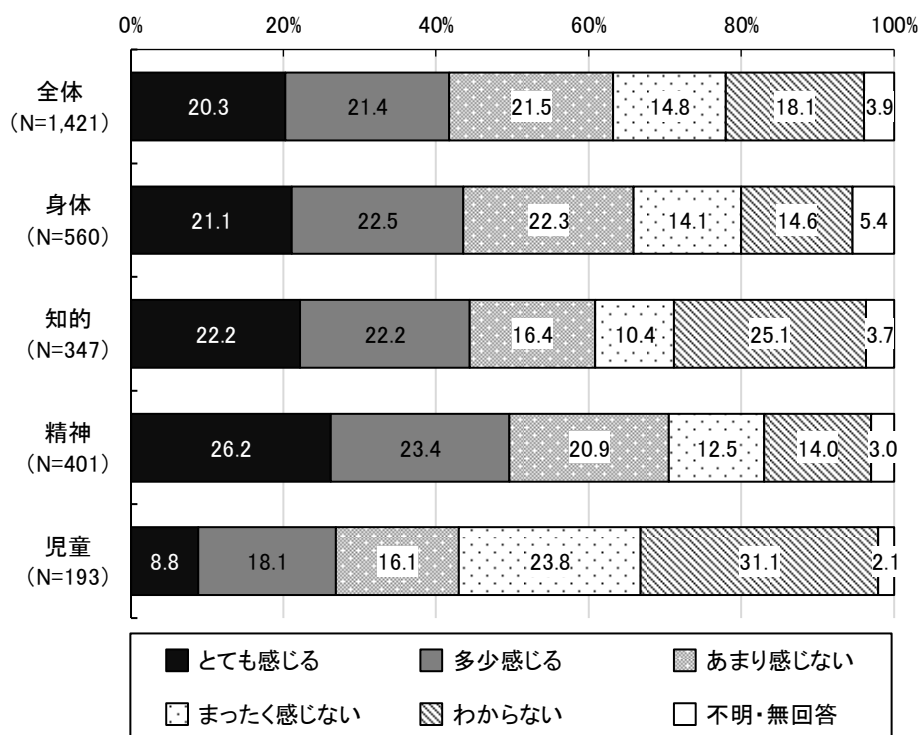
一方、「いない」については、障がいのある児童で3割となっており、身体障がいのある人・知的障がいのある人・精神障がいのある人では4割～5割となっています。



問 43 あなたは、自身の障がいを理由として、避難所へ避難することにためらいを感じますか

自身の障がいを理由として、避難所への避難にためらいを感じるかについてみると、身体障がいのある人・知的障がいのある人・精神障がいのある人において、「とても感じる」と「多少感じる」の合計である『感じる』が約4割半ば～5割となっており、障がいのある児童では2割半ばとなっています。

一方、「あまり感じない」と「まったく感じない」の合計である『感じない』については、2割半ば～4割となっています。



問 44 あなたが避難所で過ごす場合に、不安に感じることは何ですか

避難所で過ごす場合に不安に感じることについてみると、身体障がいのある人では「トイレなどの設備が整っていない」が41.6%、知的障がいのある人・障がいのある児童では「意思疎通がうまくできない」がそれぞれ52.7%、35.2%、精神障がいのある人では「服用している薬が手に入らない」が58.1%で最も高くなっています。

	全体 (N=1,421)	身体 (N=560)	知的 (N=347)	精神 (N=401)	児童 (N=193)
服用している薬が手に入らない	39.1	36.3	24.5	58.1	16.1
周囲の目が気になる	34.1	27.1	38.3	47.1	25.4
迷惑をかけると思ってしまう	33.6	33.2	44.7	35.7	34.7
トイレなどの設備が整っていない	32.4	41.6	30.8	32.2	20.2
プライバシーの配慮がされない	31.4	29.6	28.2	38.4	17.6
意思疎通がうまくできない	28.6	20.9	52.7	29.2	35.2
必要な配慮が得られない	26.3	28.4	31.7	27.4	26.4
その他	7.3	7.0	5.5	9.2	9.3
特になし	13.7	13.0	11.8	9.7	22.8
不明・無回答	4.4	5.4	4.9	3.0	3.1

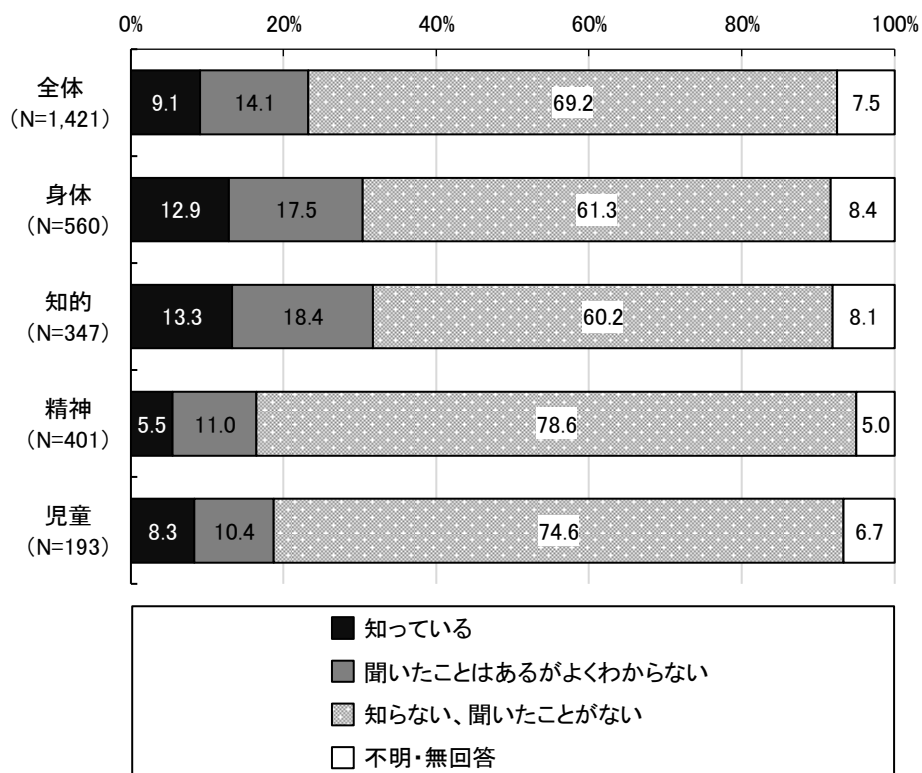
問 45 火事、台風や地震などが起こったとき、障がいがあることで困ること、心配なことはありますか

火事、台風や地震などが起こったとき、障がいがあることで困ること、心配なことについてみると、身体障がいのある人・精神障がいのある人では「治療が受けられない、薬がもらえない、医療的ケアが受けられない」がそれぞれ46.3%、65.8%、知的障がいのある人・障がいのある児童では「避難所で過ごすことが不安」がそれぞれ53.9%、45.6%で最も高くなっています。

	全体 (N=1,421)	身体 (N=560)	知的 (N=347)	精神 (N=401)	児童 (N=193)
避難所で過ごすことが不安	47.1	45.5	53.9	54.6	45.6
治療が受けられない、薬がもらえない、医療的ケアが受けられない	45.7	46.3	28.0	65.8	20.7
安全なところまで、すばやく避難することができない	31.5	42.0	43.2	23.4	31.6
周囲とコミュニケーションがとれない	26.8	16.1	48.1	31.2	31.1
救助を求めることができない	17.2	16.6	33.1	16.2	18.1
被害状況、避難場所などの情報が手に入れない	15.6	13.0	24.5	17.5	14.5
補装具(車いす、補聴器、白杖、義足など)が使用しづらくなる	8.3	19.3	5.2	1.5	6.2
補装具(車いす、補聴器、白杖、義足など)や日常生活用具を手に入れにくくなる	5.1	11.4	2.6	1.0	4.7
その他	3.4	2.7	2.9	4.7	2.6
特になし	13.9	12.1	13.5	9.0	23.8
不明・無回答	8.7	9.5	10.1	6.2	8.3

問 46 避難行動要支援者制度を知っていますか

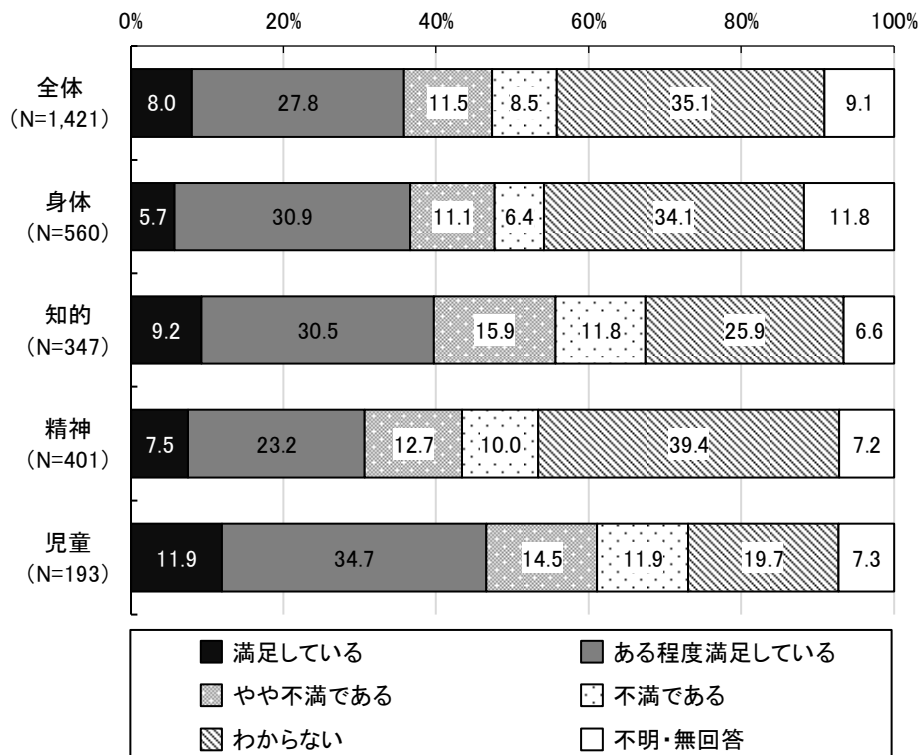
避難行動要支援者制度の認知度についてみると、いずれの障がいにおいても「知らない、聞いたことがない」が最も高く、6割～8割近くを占めています。



9. 障がい児・者福祉について

問 47 伊勢市における障がい児・者の施策について満足していますか

伊勢市における障がい児・者施策の満足度についてみると、「満足している」と「ある程度満足している」の合計である『満足している』は、3割～4割半ばとなっています。一方、「やや不満である」と「不満である」の合計である『不満である』は、1割半ば～約3割となっています。



問 48 今後、特に充実すべきだと考える障がい児・者の施策は何ですか

今後、特に充実すべきだと考える障がい児・者施策についてみると、身体障がいのある人では「災害時の避難で困らない体制をつくる」が40.2%、知的障がいのある人では「日常生活を支援する人や施設を増やす」が44.1%、精神障がいのある人・障がいのある児童では「就労を支援する」がそれぞれ42.1%、44.0%で最も高くなっています。

	全体(N=1,421)	身体(N=560)	知的(N=347)	精神(N=401)	児童(N=193)
就労を支援する	36.3	31.1	35.2	42.1	44.0
緊急時に困らない体制をつくる	36.0	37.1	42.9	33.9	33.2
災害時の避難で困らない体制をつくる	34.9	40.2	39.5	30.7	30.1
障がいのある人に対する差別をなくす	33.9	27.1	35.2	39.7	37.8
日常生活を支援する人や施設を増やす	32.8	31.3	44.1	30.4	37.3
医療費を減らす	28.3	26.8	16.4	36.9	17.1
日常生活を支援する人や施設の設備の質を高める	26.0	27.5	35.2	23.7	32.1
作業所などで就労する人の工賃の水準を向上させる	24.3	18.6	31.1	30.7	22.3
障がいのある人に対する虐待を防ぐ	17.5	14.6	19.9	19.2	21.2
容易に情報を得ることができるようにする	16.0	16.8	12.1	17.5	16.6
住宅を確保する	13.3	9.6	13.0	18.5	10.4
地域住民等の理解を促進する	12.6	10.9	16.4	12.0	13.5
公共施設、駅、デパートなどをバリアフリー化する	11.6	19.8	4.9	6.5	8.8
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられるようにする	11.3	15.4	6.1	11.5	2.1
気軽に文化芸術・スポーツなどを行うことができるようにする	11.0	8.8	11.0	15.0	16.1
障がいのない児童・生徒と共に学ぶ機会を増やしたり充実したりする	9.4	9.3	10.7	6.7	22.8
手話を普及させる	3.3	3.9	2.3	2.7	3.1
不明・無回答	12.0	13.2	12.7	8.5	10.4

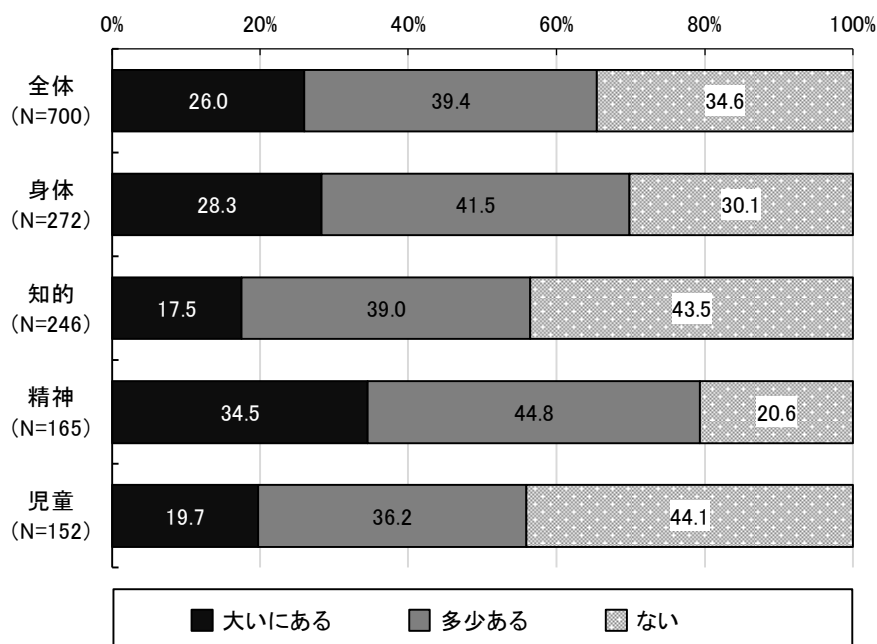
10. 介助者について

●問 49 は、介助者の方が回答

問 49 介助者の不安や負担として、次のうちあてはまるものは何ですか

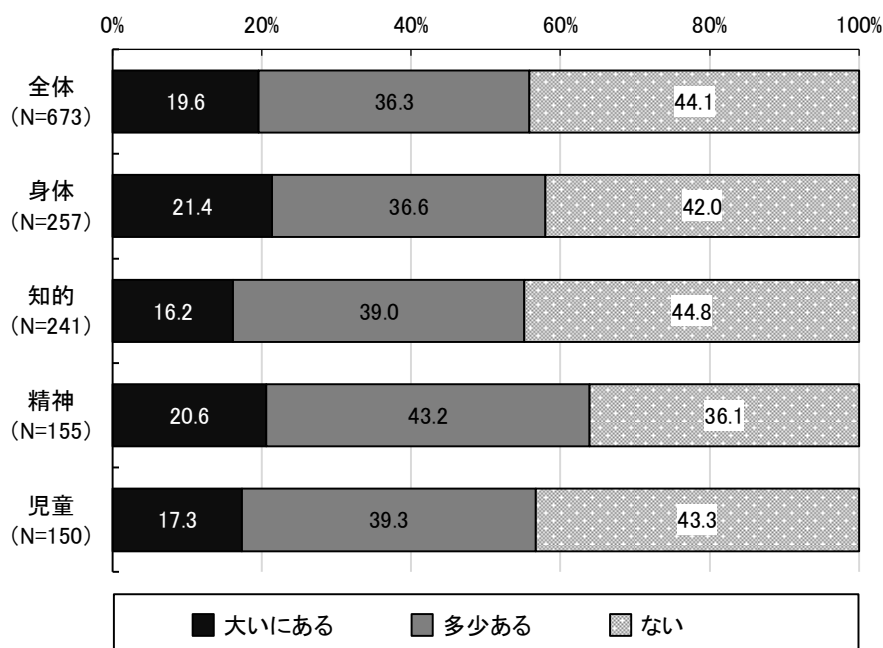
① 医療費や交通費などの経済的負担が大きい

医療費や交通費などの経済的負担が『ある』（「大いにある」と「多少ある」の合計。以下同）介助者については、5割半ば～8割となっています。



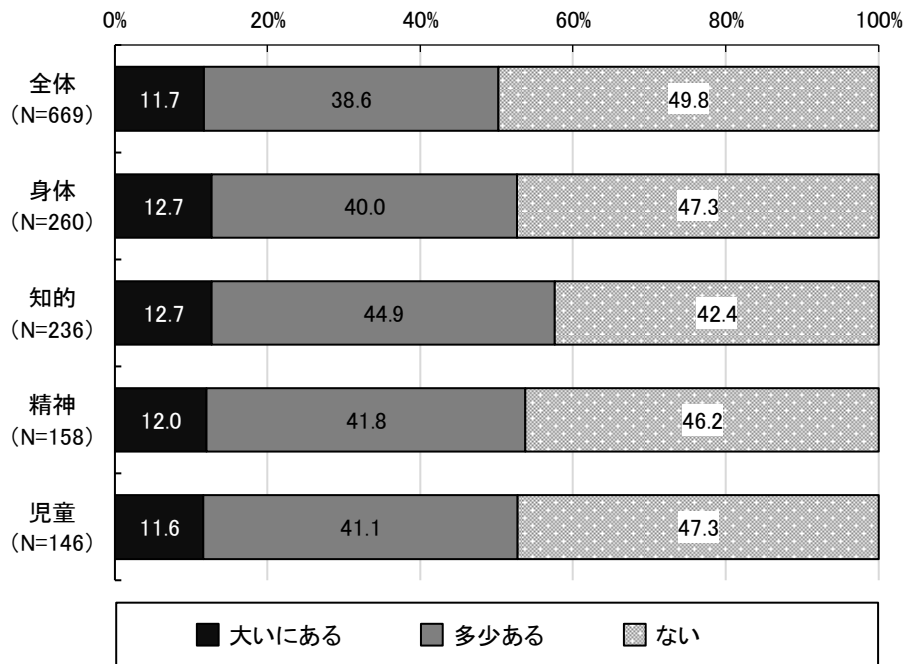
② 障がい福祉サービス等の負担（手続や利用料）が大きい

障がい福祉サービス等の負担が『ある』介助者については、5割半ば～6割半ばとなっています。



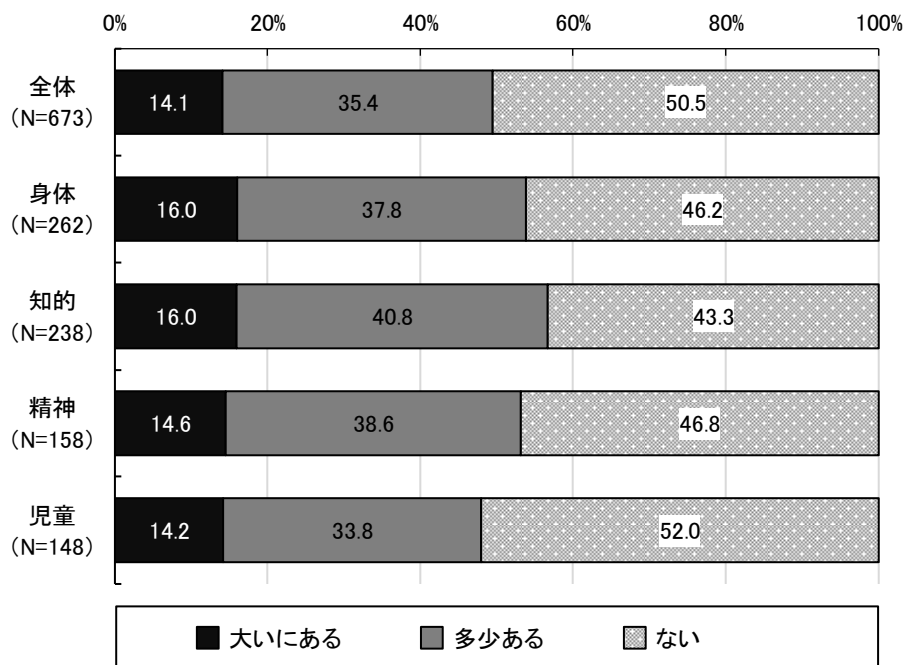
③ 介助で仕事や家事ができない

介助で仕事や家事ができないことについて『ある』介助者は、5割～5割半ばとなっています。



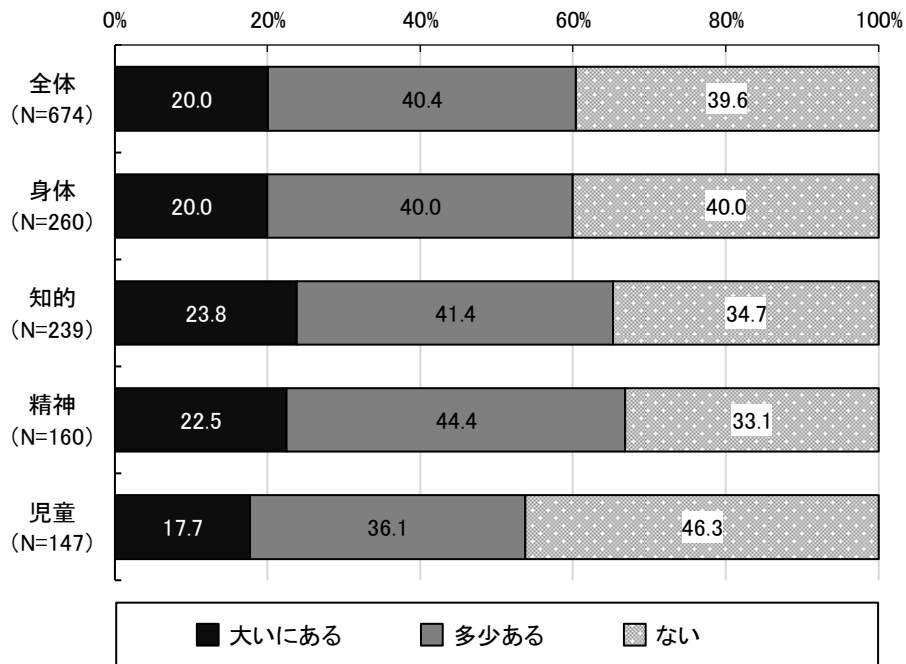
④ 介助で自分の時間が持てない

介助で自分の時間が持てないことについて『ある』介助者は、5割～5割半ばとなっています。



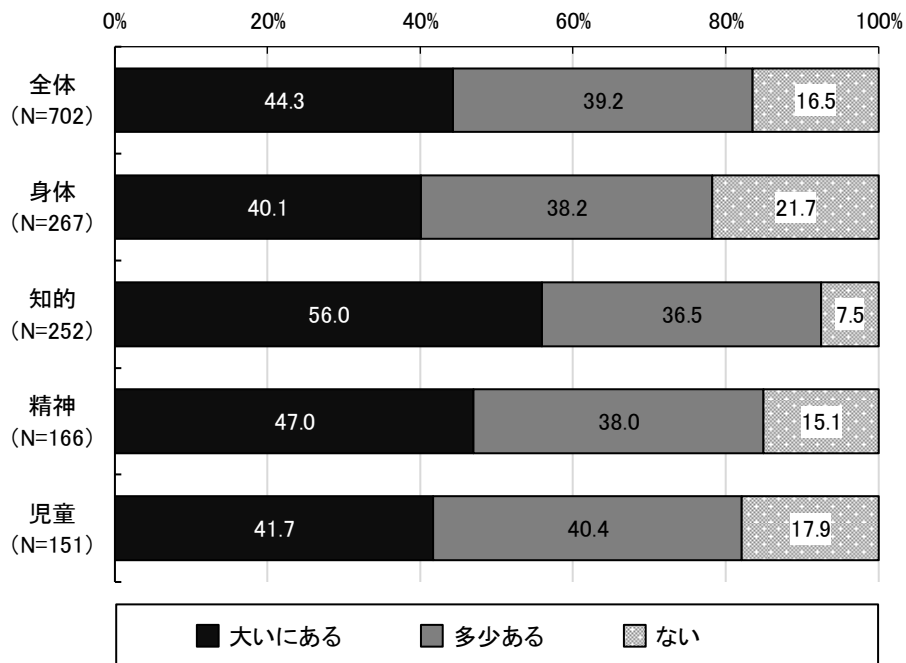
⑤ 介助で心身ともに疲れる

介助で心身ともに疲れることについて『ある』介助者は、5割半ば～6割半ばとなっています。



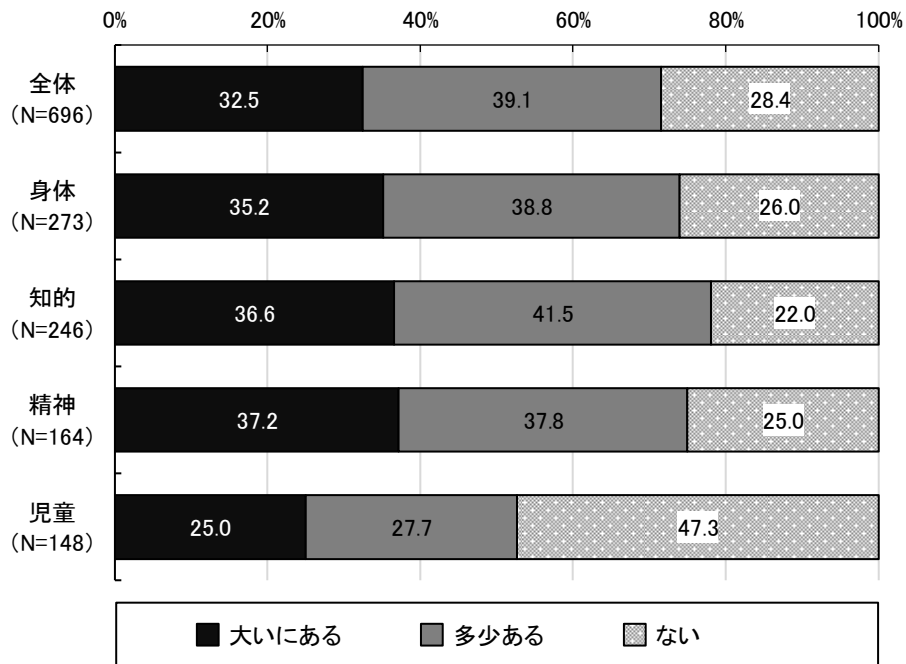
⑥ 将来の見通しがたてられない

将来の見通しがたてられないことについて『ある』介助者は、7割半ば～9割となっています。



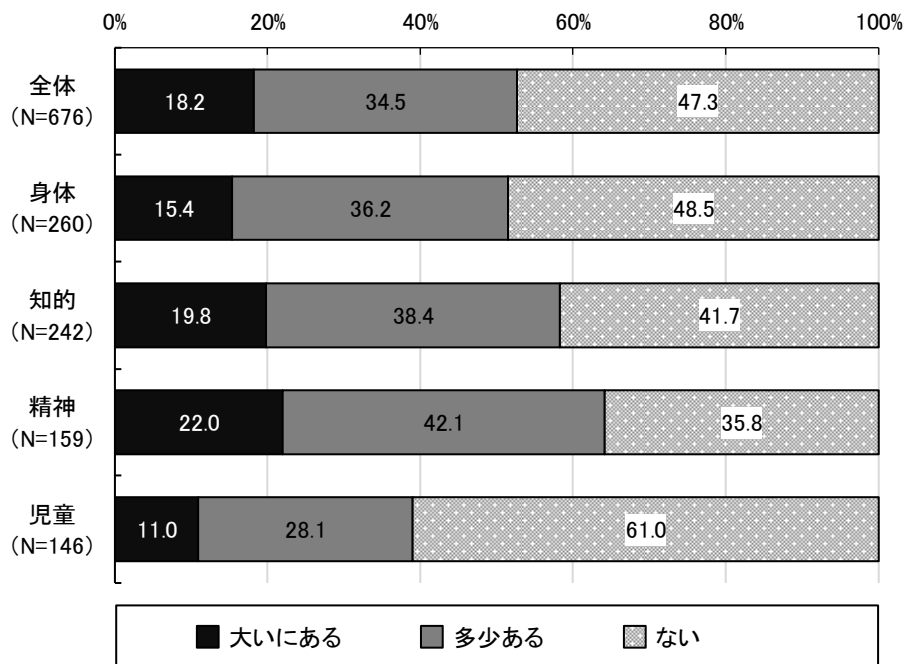
⑦ 介助者自身の健康について不安がある

自身の健康について不安が『ある』介助者は、5割～約8割となっています。



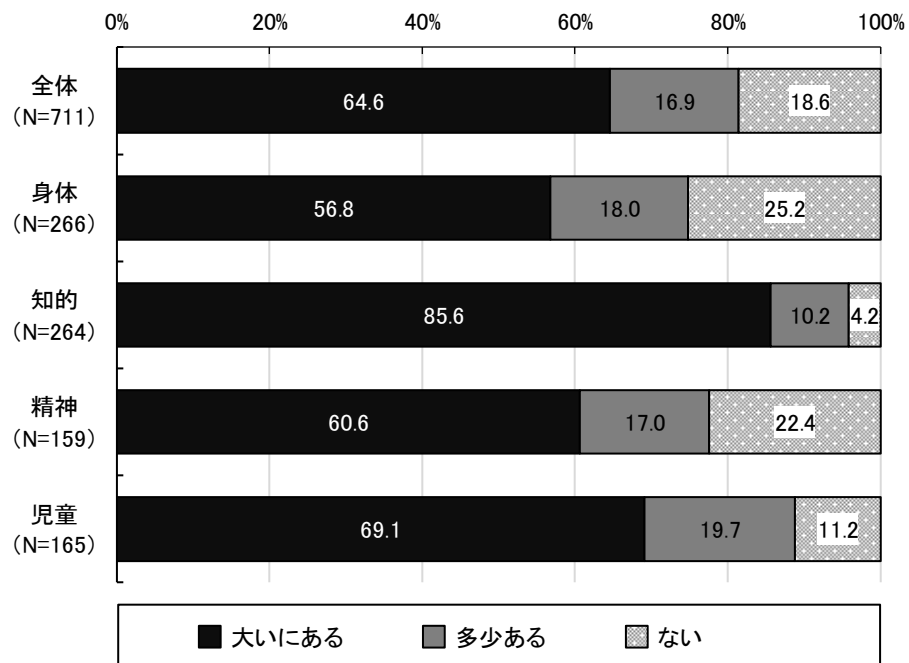
⑧ 介助の際、家族や親族によるサポートを得られない

介助の際、家族や親族によるサポートを得られないことが『ある』介助者は、4割～6割半ばとなっています。



⑨ 親なき後の子どもの生活等が心配である

親なき後の子どもの生活等の心配が『ある』介助者は、7割半ば～9割半ばとなっています。



問 50 最後に、福祉制度や行政の取り組みについて、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください

項目	主なご意見
1 日常生活について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親なき後の子どもの生活が非常に心配。また、グループホームの施設数の不足も多く聞かれるので不安である。障がいのある人が家族に負担をかけることなく暮らしていけるようにしていきたいと思う ・ 将来生活していくためのグループホーム等が充分でないので、充実してほしい。入所を希望しても「順番待ち」となり、家族の負担は軽減されない。また、障がいのある人を対象とした総合的医療機関が地域に必要だと思うし、歯科や理学療法のために市外へ通院するのは大変。加えて、内科の診療でも、本人からの確な症状が伝わりにくく緊急性を問われても家族には判断できない時もある ・ 高齢の親と暮らす中、家族がいなくなった際、どのように生活していけばいいかわからない。病気で友人・知人がいないこともあり、結婚相手や友達、相談相手、手助けしてくれる人と出会いたい。健常者や同じ障がい者、異性や若い人達と出会える場がほしい。1人の生活では将来が不安。同じ悩みを持っている人も多いと思う ・ 安心して日々を過ごせるようなサポートを望む
2 相談について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師の方など、たくさんの方に相談に乗っていただく中、早めに発達支援が受けられ、約半年で子どもの成長がみられた。これからも相談窓口の充実により、育児の悩みを聞いていただけると子育てしやすい市になると思う ・ 日本人は遠慮しがちなので自分から発言できる人は少なく、細かな制度を知らない人も多いと思う。民生委員や福祉関連職の方などが一軒ずつ丁寧に訪問して困りごとを聞く必要があると思う。「この地域に住んで安心して暮らせる」という気持ちで過ごせたらありがたい ・ 障がいのある人が、24時間対応してもらえる相談支援があるといいと思う。些細な事でも相談でき、誰か来てほしい時に訪問してもらえるサービスが24時間対応してもらえるなど、1人で自立して生活していくためのサービスを望む ・ 精神的にも不安で、勤めている会社を休んでいる。当事者は一生障がい（病気）と向き合っていく事になるし、将来への不安が募る一方である。気軽に相談できる場所、または話し相手がほしい
3 情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所等へ行って初めて知ることが多々あるので、詳細な情報をまとめた資料を作成するとか、新しい情報が出た場合に郵送するなど、各々の状況に合わせた情報提供をお願いしたい ・ 福祉の情報をメールで受信できたら良い。情報を取得しにいくだけでなく、新情報が入ってこればと思う。そうすれば新しい情報を逃すこともなくなる

項目	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に関する悩みをどこに相談すればいいのかわからないことがある。SNS等による発信を希望する ・ 障がいのある子どもや肢体不自由児について、人数も少ないためなのか、情報を得られることも少ないと思う。療育などはグループ（親同士の交流など）などもあるが、肢体は個別の支援になるため、情報は聞かないと得られず、その都度問題が出てくる。今回のコロナウイルスでも医療ケア児のためのアルコールや消毒液などが入手困難になるなど大変困った背景がある
4 就労について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある人の積極的な雇用促進や労働環境のマニュアル化、加えてその向上とともに、就労継続支援などの充実を望む ・ 一般企業が法令に定められた人数（パーセンテージ）を雇用するだけでなくもっと積極的に雇用できるよう、バリアフリーやIoTを活用するなどして、障がいのある人が働きやすくなる環境整備を行った企業に対して補助金や免税制度を設けるなどすれば良いと思う ・ 精神障がいのある人に対する就労が少ないと思う。働きたくても枠が少ないので困るし、広く就業機会があれば助かる。このアンケートをきっかけに、さらなる障がい者への就労を考えていただければ幸いである。よろしく願います ・ なかなか正社員になれず、就職できても何度もクビになり、定職に就けない状況がある。アルバイトの状態でも今回のコロナ禍を受け、1番最初に自宅待機になり不安の日が続く。差別をなくしてほしい
5 余暇活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊勢市は障がいのある人のための施設や、当事者同士が集まる企画・イベントがほとんどない。広報いせでも子どもや高齢者のイベントは多いように思う。もっと充実させてほしい ・ 自閉症の人達が行ける（プール付き）スポーツジムがあれば良いと思う。体重管理などが自分ではできない人が多いため ・ 気軽に参加できる旅行パッケージがほしい ・ 音楽療法でもストレス解消になっているが、スポーツや仕事で汗を流すことができればもっと楽しくなると思う。支援を受けてスポーツができるようになることを望む
6 移動・外出について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動援護の時間を増やしてほしい。また、短期入所施設への送迎が利用できるようなれば良いと思う ・ 親が元気なうちは、作業所のバス停まで送り迎え、買い物等ができるが、本人1人では無理な状態。親なき後をどうすれば良いか不安。また、他市に比べて移動支援のサービスをしている事業所がほとんどなく困っている

項目	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・昔に比べると、随分外出しやすくなっていると思う。その一方、おかげバスの走っていない地域に住んでいるのに加えて、普通のバスの本数が減ってきているので不便になってきている。できればデマンドバスを通してほしい ・名古屋など都会に比べて公共交通機関（バス）の最終が早いので、いざ自分で通勤・通学しようにも時間に制限が出てしまう。まだ家族のサポートがあるからやっつけていけるが、なくなった時は不安
7 医療について	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の軽減などは感謝している。さらなる福祉制度の充実を期待している ・医療費の負担が大きいので、もう少し軽減してもらいたい。他県では医療費負担が軽減されている事例もあるのに、伊勢市での医療費軽減がまだまだ遅れていると思う ・（発達系の）医療施設が伊勢市にないのでつくってほしい。今は津市まで通っているので、道中は長い上に予約が埋まっており、なかなか行けない状況 ・支援してくれる場所が少なくなっている。市内に精神病院、通院できるところが少な過ぎる。支援を受けたいが手続きが面倒な上に休日を利用して手続きすることができない。どんな支援があるか具体的にわからない
8 生活環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、高齢者や障がいのある人達のための支援がもっと多く必要となってくると思うので、できれば入所施設やグループホーム、就労支援などが増えるといいと思う。公民連携により、福祉施設が充実することを願う ・ひとり暮らしができるような支援をしてほしい ・ヘルプマークの普及をありがたく思う。内部障がいのため周囲に気づいてもらえないこともあり困っている中、友人に東京から取り寄せてもらっていた。伊勢市で手に入れることができるようになりありがたい。可能であればペースメーカーマークも独自につくってもらえれば ・公共施設等はバリアフリー化がほとんどされているが、スーパー等民間施設においては、バリアフリーであっても通路の間隔が狭いところがあるなどの状況がみられる。車いす利用者のみならず、ベビーカーすら通れないところもある。トイレの確保も含めて、身近なスーパー等に発信していただけると幸いである
9 差別や権利擁護について	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人に対して、まだまだ偏見の目や差別の目が多いと思うので、少しずつでもなくなればいいと思う。個性の1つとして捉え、温かい目で見えていただきたい。加えて、介護職員は大変なりリスクがある中、利用者のために尽力されているので、給料等の処遇を見直すなど改善が望まれる

項目	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人のウソを流布されることがあるので、特に就業にあたっては、具体的な支援や解消に向けた対策をお願いしたい ・目に見える障がいの方はまだいいと思う。見た目も生活も“普通”だと、障がいについて理解されにくい。さらに、精神的な障がいは「甘え」とか「言い訳」と言われるので大変生きにくく、そうした中で、それを隠しながら生きていくのがつらい ・ひとり暮らしの部屋・アパートを借りる際の対策やサポート。また、金銭面などの対策や、一般就労の対策やサポートが重要
<p>10 安全安心について (災害・感染症も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等の緊急時に対応してくれる施設を望む ・地震・津波警報が出てもすぐに移動ができない。そのため、安全に避難できないと思うととても不安である ・コロナに感染した時の対応や、地震、台風の時の避難のことがとても不安で心配です。親がなくなった後、本人が不安にならず安心して楽しく暮らせるのか、伊勢市に本人に合った施設があるのか、そういうことを考えると眠れないときがあります。私の声が届いて行政が動いてくれることをいつも願っています ・今回のような感染症が広まった際の、障がいを持つ人達（特に内部障がい）への医療的な支援や配慮がどのようにされているかが全くわからない
<p>11 教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より良くしようと考えていただき感謝したい。伊勢は住みやすいし取り組みにも満足している。ひとつ期待するなら、子どもの頃から「いろんな人がいて当たり前」と、障がいのある人を特別視することなく受け入れられるような教育環境が整っていることである ・療育に関してはとても手が行き届いていると感じており、充分満足している。他県から転居してきたが、対応してくださる方が、皆さんとても親切でありがたい ・子ども自身が今後、発達障がいとどのように向き合っていくのか、また生活していけるのかが、親としてとても心配。小学校から療育に通所させてもらっているが、学校との連携をもっと強化してもらえたらと思う。中学校になると、さらに先生との関わりが希薄になると聞くので、小学校の卒業後に不安を感じる ・学校卒業後の通所先がないので、公立・民間を問わず学校卒業後の自立支援の施設（就労・生活）を増やしてほしい。また、それに伴う支援者も必要。子どものうちはまだいいが、18歳から安心して暮らせる伊勢市にしてほしい
<p>12 アンケートについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートに回答した障がいのある人本人、そして家族の切実な気持ちが生かされるようお願いしたい

項目	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答はつらい作業だったが、対人でないことや、希望が見える予感がするなど、得るところはあったと思う。私の場合、休職している会社や家族・友人のことを考える余裕がないので、アンケートに救われた部分がある。お役に立てれば幸いである ・項目が多く回答しづらいので、もっとわかりやすくしてほしい。だがそれよりも、実際の現場を見てほしい ・このアンケートは同封の返信用封筒に入れづらい。A4サイズが入るものの方が良いと思った。また、封筒に両面テープがあれば
13 行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きの簡素化を望む。書類などの記入する箇所を減らしてほしい。また、郵送やインターネットによる手続き、開所時間の延長。マイナンバーによる情報の一元化 ・伊勢市内に引っ越ししてきた際、県内他市と連携が取れていないのですごく困った。県内であればスムーズに対応していただきたかった。また、県内他市と比べて、伊勢市は療育施設から得られる就学についての説明をはじめ、制度に関する説明が圧倒的に少ない。もっと説明会を開くなどして各教育現場の声を伝えてほしい。療育施設も体制が整っているとは思えない。全体的に現在の伊勢市の環境自体が甘いと思う。市役所職員も施設職員も、もっと勉強されるよう望む ・市町によって、障がいのある児童に対する支援にまだまだバラつきがある。伊勢市から県内他市へ支援方法や障がいのある児童に対する勉強など教えてもらいに行った経験がある。県内・国内、どこでも同一の支援が受けさせてもらえるようになってほしい ・誠実に取り組んでもらっていると思う。福祉課の方々の対応が大変良くなったし、窓口での対応も親切、丁寧、わかりやすく助かる。今後も障がいのある人の不安や心配を軽減する取り組みをお願いしたい
14 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・親の会などをつくり、行政と連携できる体制を構築してほしい。また、福祉施設等をさらに増やすなどの充実を図り、障がいのある人が安心できる体制をつくってくれれば嬉しい ・いろいろな意味で、福祉に関して余裕と安気さは増えていると感じる。これから新しい時代に入り、共生・相互扶助が当たり前になることを期待している ・障がい福祉関係者のご指導に感謝している。新型ウイルス発生後は、今までの常識も変わる。そうした事に対応する姿勢で臨みたい ・障がいの大小に関わらず、障がいのある人々が自立して生活している。また、海外とは違い、日本文化にまだ多少なりと障がいとの差があるように思う。その差を縮めている取り組みなどを、もっと多くの方に知っていただければと思う

伊勢市
障がい者計画等策定のための市民アンケート調査
【結果報告書】

令和2年8月

発行：伊勢市 健康福祉部 障がい福祉課
〒516-8601
三重県伊勢市岩渕1丁目7番29号
TEL：0596-21-5558
FAX：0596-20-8555